

WOODBURNING STOVE

取扱説明書

MODEL#1920 ASPEN

— [アスペン] —

バーモント キャスティングス アスペン
このたびは、VERMONT CASTINGSのアスペンをお買い上げいただき、
まことにありがとうございます。

正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。

この「取扱説明書」はお読みになった後も「工事説明書」、「保証書」とともに
お使いになる方がいつでも見られるところに、大切に保管してください。

(最新の取扱説明書は弊社ホームページよりダウンロードできます  47ページ)



VERMONT
CASTINGS

VERMONT
CASTINGS

ようこそ薪ストーブの国へ

Welcome to Wood Stove-Country.

薪ストーブの国へ、ようこそいらっしゃいました。
今日から、あなたも薪ストーブの国の住人です。

さて、これから薪ストーブの炎がゆらめく素晴らしい日々が始まりますが、
その前にお願いしたいことがあります。
それは、ご使用前にこの「取扱説明書」を必ずていねいにお読みいただくことです。
そして、この薪ストーブをより正しくご使用いただき、
末永くこの薪ストーブとともに暖かい人生を分かちあっていただきたいということです。



目次

1. 特に注意していただきたいこと	4
安全のために必ずお守りください	4
2. 付属品一覧	9
3. アスピンの基礎知識	10
アスピンの歴史	10
各部名称	11
機能と特長	12
4. 設置	14
据え付け場所の選定	14
床の保護（炉台の寸法）	14
前方、および天井の離隔距離	14
壁の保護と離隔距離	15
煙突の据え付け	16
部屋の気密と燃焼用空気について	16
5. 薪について	18
使用する薪の条件	18
薪作りのための斧と薪割り	19
6. 焚き方と燃焼維持	20
着火の前に用意するもの	20
慣らし焚きについて	21
着火	21
薪の追加	24
温度計の温度について	25
消火	25
7. ドラフト管理	26
8. 点検スケジュール	30
点検・お手入れの区分	30
定期点検	31
9. メンテナンス	32
灰の掃除	32
一次空気吹き出し口の掃除	32
本体のお手入れ	33
ドアガラスのお手入れ	33
ドアガラスの交換	34
ファイバーロープの交換	35
フロントドアの調整	37
一次空気取入れ口、サーモスタットの点検	38
耐火レンガの点検・交換	39
煙突の点検と掃除	40
10. トラブルシュート（問題解決のヒント）	42
11. 仕様	45
仕様一覧	45
ストーブ寸法図	46
12. 保証とアフターサービス	47



特に注意していただきたいこと

1

安全のために必ずお守りください

特に注意していただきたいこと

警告表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな警告表示をしています。誤った取り扱いをすることによって生じるリスクの内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します



この表示は、「禁止」されている内容です。



この表示は、「注意」していただく内容です。



この表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

危険

お客様による据え付け 移設工事の厳禁

据え付けや移設工事は販売店、または専門業者に依頼し、お客様で自身では行わないでください。設置については別紙の「工事説明書」の他、火災予防条例、建築基準法などの法令の基準があります。これらに従わない場合、火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。

据え付ける床を必ず保護する

ストーブを据え付ける床を不燃材料で防火有効に保護してください。また、ストーブの底部に付属のボトムヒートシールド（遮熱板）を必ず取り付けてください。床の保護を怠ると燃えた炭の落下や輻射熱で、火災の原因になります。

 14 ページ／別紙「工事説明書」

ガソリン厳禁

ガソリン、軽油、灯油、またはオイルなど引火しやすい油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

スプレー缶、カセットボンベなどの高圧容器等をストーブの上や周囲に置かないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

衣類の乾燥禁止

ストーブの上に物が落下する場所では使用しないでください。また、ストーブの上部で衣類などの乾燥はしないでください。落下物に着火して、火災の原因になります。

灰を可燃性の容器に入れない

ストーブから取り出した灰を紙袋やビニール袋など可燃性のものに入れないでください。火災の原因になります。

 32 ページ

⚠ 警告

⚠ 可燃物との距離を離す

ストーブ、および煙突から、周囲の壁・天井・柱などの建築物までの間は、火災予防上の安全な離隔距離を設けてください。火災の原因になります。

👉 14 ページ／別紙「工事説明書」

⊘ 家具、カーテン、寝具、薪など、可燃物近接禁止

家具、カーテン、寝具、薪など、燃えやすいものをストーブや煙突に近づけないでください。火災の原因になります。

👉 14 ページ／別紙「工事説明書」

⊘ 煙突・給気筒外れの危険

煙突や給気筒が外れたまま使用しないでください。煙が室内に漏れて健康に害をおよぼすほか、火災の原因になります。

⊘ 給気・排気経路閉そくの危険

煙突や給気用のダクトがつまったり、ふさがれたまま使用しないでください。煙突内部は定期的（少なくとも 1 年に 1 回）、または煙突内部に 3mm 以上のススやタール等が付着した場合は必ず掃除を行い、屋外給気口の周囲は常に整理整頓してください。煙突火災の発生や煙が室内に漏れて危険です。

👉 38、40～41 ページ

⊘ 分解・改造使用の禁止

本書に記載されているメンテナンス以外の分解、および改造はしないでください。火災や破損の原因になります。

⚠ 定期点検の実施

お客様で自身で行われる日々のメンテナンスのほか、定期的（5 年に 1 回程度）に専門業者の点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、経年劣化等により、故障や事故の原因になります。

👉 31 ページ／別紙「あんしん点検のご案内」

⚠ お子様やお年寄りのご使用注意

お子様やお年寄り、お身体の不自由な方がお使いになる場合は、周囲の方々がやけど等に十分に注意してください。

⚠ 移動防止柵（フェンス）の設置

特に小さなお子様やペットがいるご家庭では、移動防止柵（フェンス）を設置して、ストーブに近づかせないでください。やけどの原因になります。

⊘ フロントドアを開けたままの使用禁止

フロントドアを開けたまま使用しないでください。また、ドアが閉まらないような長い（太い）薪はくべないでください。煙や火の粉が室内に漏れたり、火がついた薪が室内に転がり落ちるなどして、火災の原因になります。

⊘ 天災地変の後はそのま使用しない

地震、水害、落雷などの天災地変にあった場合はそのまま使用せず、必ずお買い求めになった販売店、または専門業者に点検をご依頼ください。隠れた不具合に気づかず使用し続けると、火災の原因になります。

特に注意していただきたいこと

1

安全のために必ずお守りください

特に注意していただきたいこと

❗ 換気の必要性

ストーブをご使用になる前に、必ず部屋の給気口（レジスター等）を開き、外気が入る状態にしてください。

使用中に煙の強い臭いや異臭を確認したら、ただちに使用をおやめになり、窓や戸を開けて室内の換気を行い、お買い求めの販売店にご相談ください。

👉 16 ページ「部屋の気密と燃焼用空気について」

⚠ 警告

ストーブを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器の影響により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取り込めないと、不完全燃焼が起こる他、一酸化炭素等を含んだ煙が部屋に漏れて、健康に害をおよぼすおそれがあります。

一酸化炭素検知機能の付いた火災警報器の取り付けをおすすめします。

⚠ 注意

⚠ 高温やけどに注意

燃焼中や消火直後はストーブ、および煙突が高温になりますので、手などで触れないでください。やけどの原因になります。ストーブを操作する際は、燃えにくく断熱効果のあるグローブを必ず着用してください。

⊘ 自然薪以外の燃料使用禁止

乾燥した自然の薪以外は燃やさないでください。化学物質や塩分等が含まれている薪は、有害物質が発生し健康に害をおよぼすほか、破損の原因になります。

👉 18 ページ

⚠ 焚きすぎ注意

燃焼室に薪を入れすぎないでください。また、ストーブ天板の温度は連続して350℃以上で使用しないでください。火力が大きすぎるとドアを開けたときに炎が漏れる、またはストーブや煙突が過熱され、破損の原因になります。

👉 23 ページ

❗ 換気扇使用時のご注意

ストーブの燃焼中に換気扇を使用すると、ストーブや煙突接続部から室内に煙が漏れることがあります。異常に気付かれた場合には換気扇を止め、販売店にご相談ください。

⊘ 異常・異臭・故障時の使用禁止

制御できない燃焼、強い臭い、部品の変形、または破損など、異常や故障に気づいたら使用を中止し、販売店へご相談ください。事故の原因になります。



慣らし焚き必要

ストーブを焚き始める前に、必ず「慣らし焚き」を行ってください。いきなり高温で使用すると、破損のおそれがあります。焚きははじめの数回は、ストーブと煙突に塗られている錆び止め油や塗料が熱せられ、臭いと煙が発生しますので、窓や戸を開けて室内の換気を行ってください。

 21 ページ



消火器の設置

万が一のために、消火器を常に決まった場所に置いてください。



火災警報器の設置

万が一の時でも、火災警報器があればいち早く火災を知らせてくれます。お住まいの地域の火災予防条例に従い、火災警報器を設置してください。一酸化炭素の検知機能の付いた警報器ですと、なお安心です。



外出前の確認

外出する場合は、しばらく前から薪を追加するのをやめてください。必ずフロントドアが閉まっていることを確認してください。また、周囲にある燃えやすいものをストーブから十分離し、万が一に備えてからお出かけください。ストーブを設置している部屋にペットが入らないようにしてください。



ガラスの破損注意

ドアを激しく閉めないでください。また、薪を激しく投入しないでください。ドアガラスが衝撃により破損すると、ケガをするほか、室内に火の粉や煙が漏れるおそれがあります。



急激な温度上昇の禁止

ストーブに急激な温度上昇をさせないでください。変形、破損のおそれがあります。



ストーブの上にのらない

ストーブの上にのったり、腰かけたりしないでください。ケガや破損の原因になります。



水ぬれ注意

ストーブに水分や塩分を付着させたまにしないでください。錆の原因になります。



子供の火遊び注意

お子様だけで使用させるのはおやめください。また、ライター、マッチ、着火剤などはお子様の手の届かないところで保管してください。予想しない事故のおそれがあります。



ストーブの近くで 輻射熱に長時間当たらない

燃焼中は、ストーブの輻射熱に長時間当たらないでください。低温やけどや脱水症状のおそれがあります。特に小さなお子様がいる家庭では十分ご注意ください。



料理中は本体のそばから 絶対に離れない

料理中のものが焦げたり燃えたりして火災のおそれがあります。また、天ぷらや揚げものの料理は火がつく原因になりますので、絶対に行わないでください。

特に注意していただきたいこと

1

安全のために必ずお守りください

特に注意していただきたいこと



灰をためすぎない

燃焼室や灰受け皿を灰でいっぱいにしないでください。一次空気吹き出し口がふさがれて燃焼が不完全になる他、薪やおきが外にこぼれたり、フロントドアが閉まらなくなり、焚きすぎによる破損の原因になります。

 32 ページ



ドアで手を挟まないよう注意

フロントドアの開閉はハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の部分を持って開閉すると、手を挟みケガをするおそれがあります。

緊急時の処置

● 煙突火災が発生したら……

煙突火災の症状

- ・ 煙突が赤熱する
- ・ 煙突から「ゴーッ」「パリパリ」といった異音が聞こえる
- ・ 屋外の煙突トップから炎が立ち上がる

このような場合、煙突火災が発生している可能性があります。

火力を弱めるため火力調整レバーを閉じ、フロントドアを確実にロックして屋外へ避難し、消防署に連絡してください。後に必ず専門業者に点検を依頼してください。

 28 ページ「クレオソート」

異常時の処置

■「燃焼が制御できない」「煙が室内にもれる」など、異常が生じたら一時ご使用をお止めになりトラブルシューティングをご確認ください。

 42 ～ 44 ページ

■トラブルシューティングにない場合、あるいは、ご自身で問題が解決されない場合や故障と思われる時は、お買い求めの販売店へご連絡ください。

● 地震が起こったら……

- 1) まず身の安全を確保してください。
- 2) 揺れがおさまったら、あわてず落ち着いて火力を弱めるため火力調整レバーを閉じ、フロントドアを確実に閉めてください。
- 3) 地震のあとはそのままご使用にならず、お買い求めの販売店へご相談ください。

【注意】

万が一火災や地震が発生した際は人命を優先し、初期消火が行える場合は消火器で行ってください。やむを得ず水を使う場合は、高温の蒸気が噴出し、二次的な被害が発生するおそれがありますので、安全な距離から初期消火を試みてください。

付属品一覧

付属品の確認

2

付属品
一覧

アスピンの付属品は下記のとおりです。ご使用前に必ずご確認ください。
万一同梱されていない場合には、お買い求めの販売店までお問い合わせください。

■オーナーズマニュアルケース

- ☐ 取扱説明書（本書）
- ☐ 保証書
- ☐ お引渡し時確認書
- ☐ 薪ストーブを安全にご使用いただくために
- ☐ あんしん点検のご案内、兼 所有者登録ハガキ
- ☐ 個人情報保護シール
- ☐ 工事説明書
- ☐ パーツリスト

■その他

- ☐ 着火剤
- ☐ ドアガラス用ファイバーロープ 60cm
（交換用予備）

Memo

アスピンの基礎知識

3

アスピンの歴史

アスピンの基礎知識

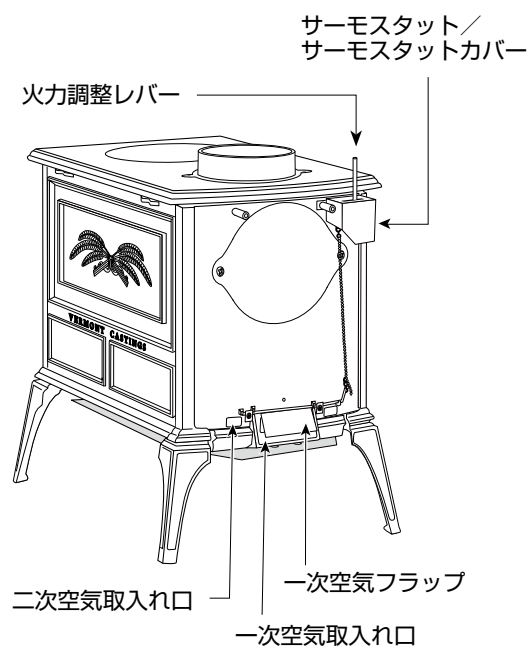
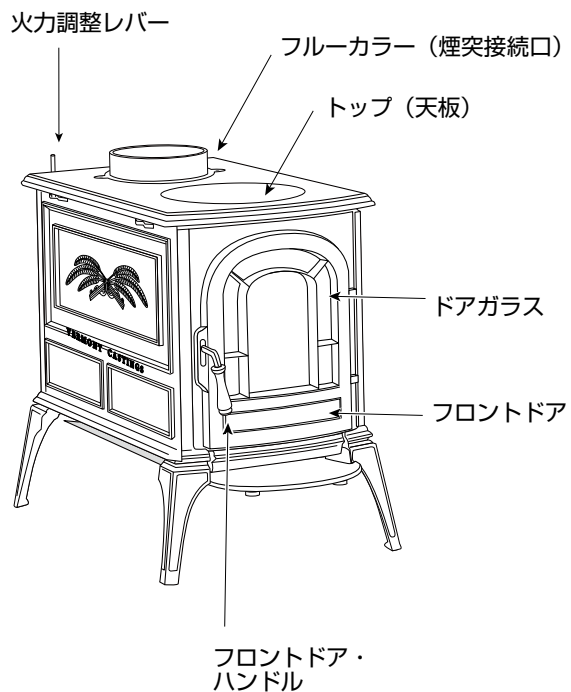
VERMONT CASTINGS

1975年、バーモントキャストिंगスは2人の起業家によって設立されました。時はまさに石油高騰オイルショックのさなか。人々は石油にかわる安価な燃料を探し求めていました。

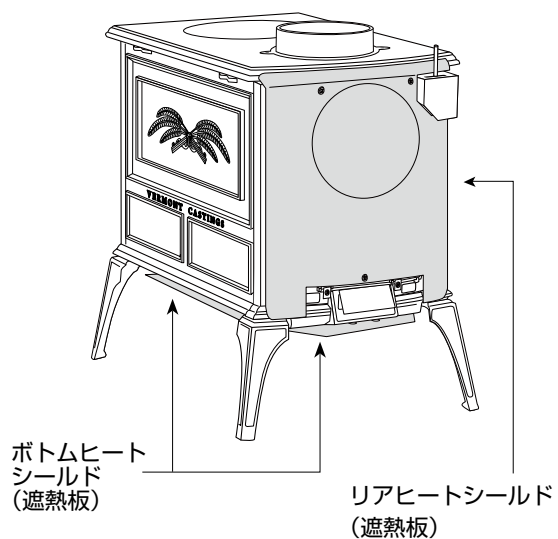
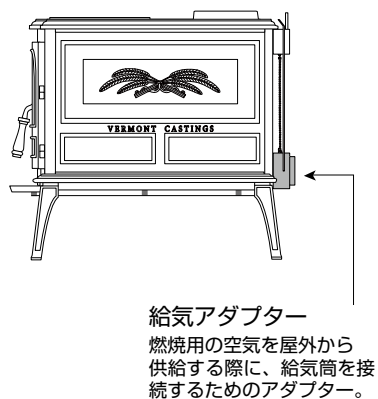
そんな折、当時としては驚異的な燃焼効率を誇る薪ストーブを世に送り出しました。家具のようなデザインの美しさも手伝い、バーモントキャストिंगスの名はまたたく間に全米を駆け抜けました。

その後、ヨーロッパから「小型の薪ストーブが欲しい」という声に応えて誕生したのがスリムなボックス型の「アスペン」。1999年のことでした。アスペンは、小型なこのクラスの薪ストーブの中では圧倒的に大きなガラスを備え、ゆらめく炎も十分に楽しめます。また、麦の穂のレリーフが優しさを演出し、住居だけでなく、店舗やアトリエなどでも広く愛されています。





オプション



アスピンの基礎知識

3

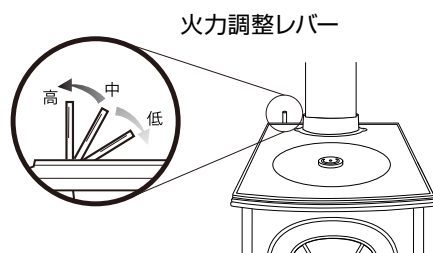
機能と特長

アスピンの基礎知識

● 燃焼コントロールシステム

■ 一次空気制御システム

ストーブの背面左側にある火力調整レバーで薪の燃焼に必要な一次空気の量を増減します。ストーブに入る空気が多いほど、火はより強く燃え、空気量が少ないと弱くなります。



一次燃焼の付随機能

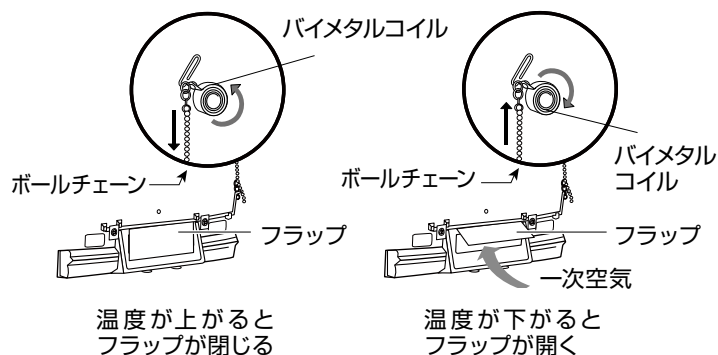
• エアウォッシュ機能

ドアガラス上部から侵入する空気は、ドアガラスの表面を流れ、燃焼室に供給されるため、ガラスにススが付きにくくなります。

• 自動温度調節機能 (サーモスタット)

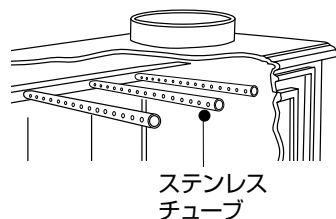
アスピンには火力調整レバーでどの位置をお選びになっても、その温度域で安定した熱出力を維持することができる自動温度調節機能が装備されています。薪が燃焼する過程に応じて、バイメタルコイルはストーブ背面から放射される熱に反応し、一次空気の取り入れを自動調整します。

火の勢いが強くなり熱の出力が高まると、バイメタルコイルがゆっくりと空気取入口を閉じ、出力がそれ以上にならないように働きます。火の勢いが弱くなり熱の出力が減少すると、バイメタルコイルはゆっくりと空気取入口を開き、出力がそれ以下にならないように働きます。この強弱作用は継続的に働き、燃料が燃え尽きるまで続きます。



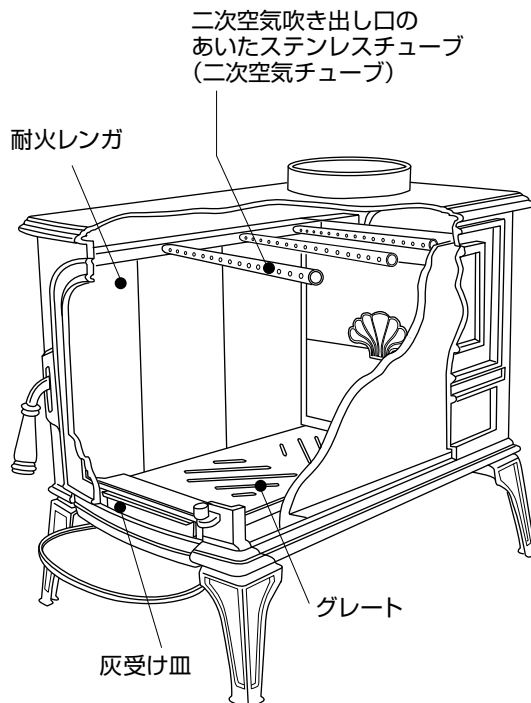
■ 二次燃焼システム

ストーブ背面下部にあいた2つの空気取入れ口から取り入れられた二次燃焼空気は、両側面下部から前方、上方へと導かれて温められ、燃焼室上方にある3本のステンレスチューブにあいた穴から供給されます。一次燃焼で放出された煙と混合され、二次燃焼が行なわれます。このことにより、高い燃焼効率とクリーンな排気を実現しています。



注意

煙突のドラフト（上昇気流）が強すぎる場合、過燃焼になることがあります。その場合には「煙突ダンパー」の調節で制御が可能です。設置は専門業者にご相談ください。



■ 耐火レンガ

燃焼室には 10 枚から構成された耐火レンガがあり、鋳物を保護します。

■ 二次空気チューブ

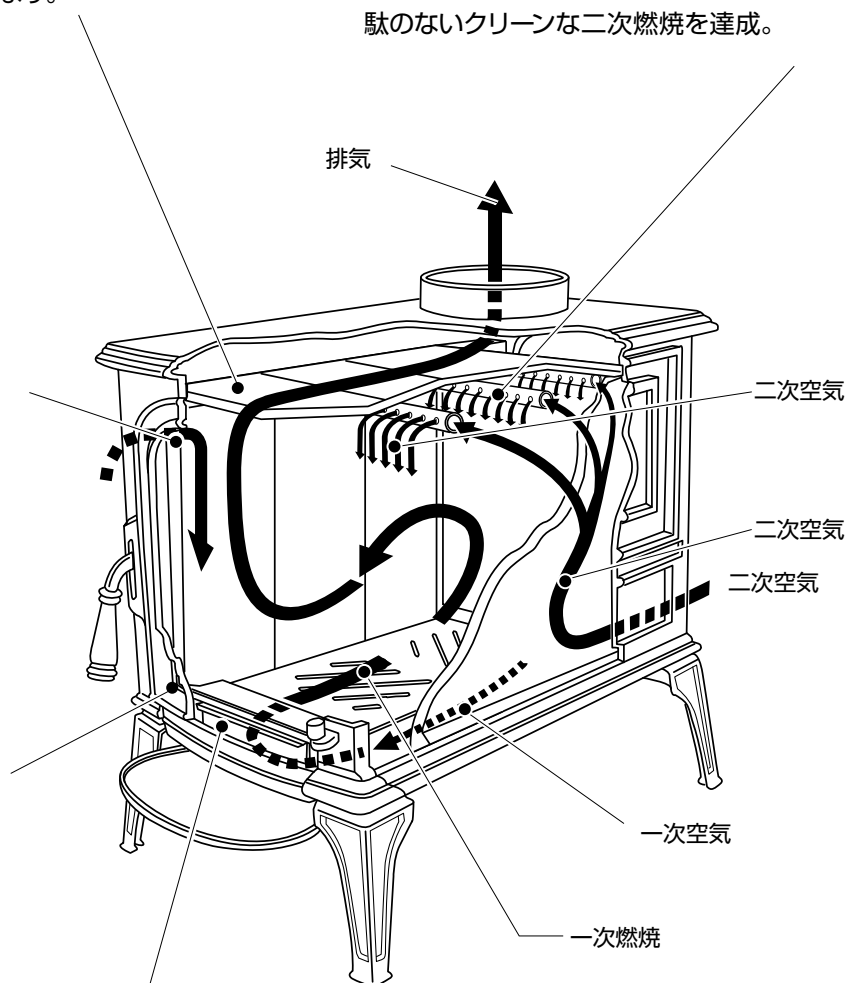
燃焼室上方に 3 本装着されている二次空気吹き出し口のついたステンレスチューブ。熱い二次燃焼用の空気を燃焼室に供給し、無駄のないクリーンな二次燃焼を達成。

■ エアウォッシュ機能

ドアガラス上部から進入する空気は、ドアガラスの内側の表面を流れ、燃焼室に供給されるため、ガラスにススが付きにくくなります。

■ コーティングガラス

赤外線反射コーティングが施されたガラスパネルを使用することにより、内側のガラス表面を高温に保ち、ガラスが汚れるのを防ぎます。



■ 灰受け皿

灰はグレートすきまから灰受け皿に落とすことができるので、かき出す手間がかかりません。さらに、たまった灰は灰受け皿ごと取り出すことができる構造。簡単に処理できます。

設置

4

据え付け場所の選定

設置

⊘ ご自身による据え付け・移設工事の厳禁

据え付けや移設工事は販売店、または専門業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。設置については別紙の「工事説明書」の他、火災予防条例、建築基準法などの法令の基準があります。これらに従わない場合、火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。

● 次の場所には据え付けしないでください。

- 水平でない場所、不安定な場所
- ストープの上に物が落下する場所
- 可燃性のガスや液体を保管、または溜まる場所
- 乾燥室、温室、飼育室など人がいない場所
- 避難口など、避難の支障となる場所
- 付近に燃えやすい物がある場所
- ホコリや湿気の多い場所
- 化学薬品を使用する場所
- 14.5m³ 未満の閉鎖された空間
- 天井高が 2.1m 未満の場所
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取り入れ口のない場所、または換気の行えない場所

床の保護（炉台の寸法）

! 設置の床を必ず保護する

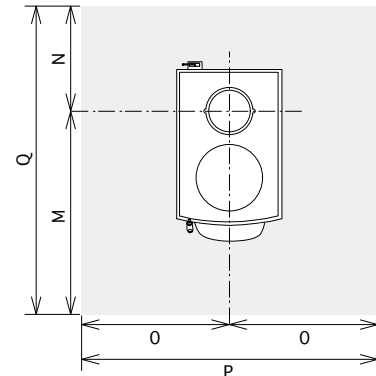
ストープを据え付ける床を不燃材料で防火上有効に保護してください。また、ストープの底部に付属品のボトムヒートシールド（遮熱板）を必ず取り付けてください。床の保護を怠ると燃えた炭の落下や輻射熱で、火災の原因になります。

● 不燃材料

本体重量に長期間耐えられる不燃材料を敷いてください。不燃材料は熱抵抗値 R が、0.105m²K/W 以上になる厚みが必要です。炉台には隙間が生じないように目地にはモルタルをつめてください。

(単位：mm)

前面M	後方N	側面O	幅P	奥行きQ
876 以上	356 以上	394 以上	788 以上	1232 以上



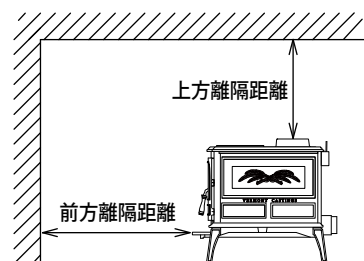
前方、および上方の離隔距離

ストープ前方の可燃物 * までの離隔距離はアッシュリッパから、ストープ上方（天井等）の離隔距離は最頂部から計測した離隔距離を離してください。

* 可燃物：家具、カーテン、寝具、薪などを含む

(単位：mm)

	メーカー指示	告示第 225 号
前方離隔距離	1220	932
上方離隔距離	915	1040

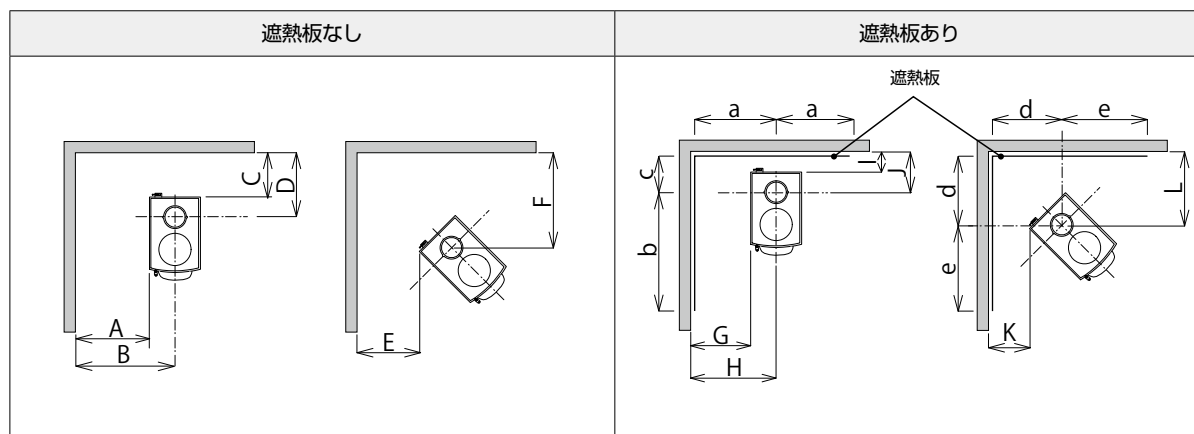


壁の保護と離隔距離

●ストーブを設置する居室の壁、および天井の仕上げは建築基準法等に定められた基準に従い、ストーブの熱を受け、火災の発生するおそれがある部分を不燃材料で防火上有効に保護してください。

●機種別に壁の仕上げと遮熱板の有無により離隔距離が異なります。ストーブから周囲の可燃物との離隔距離は、壁の仕上げと遮熱板の有無により下記に定めた離隔距離が決められています。

※遮熱板とは 25mm 以上の空気層のある特定不燃材の壁。



● メーカー離隔距離

建築基準法施行令の内装制限により、壁、天井を木材等の可燃下地材に準不燃材の仕上げを施した場合、および平屋、最上階など内装制限の規制を受けず、壁の仕上げが木材等の可燃材である場合は下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が不燃材料の場合は除外されます。

(単位：mm)

遮熱板なし						
離隔距離	A	B	C	D	E	F
	610	800	280	432	331	573

遮熱板あり						
離隔距離	G	H	I	J	K	L
	407	597	229	381	204	446
遮熱板の幅	a	b	c	d	e	
	610	864	356	421	799	
遮熱板の高さ	a	b	c	d	e	
	1680			1680		

● 告示第 225 号離隔距離

内装制限緩和の告示第 225 号に従い、壁、天井を難燃材等（木材含む）の仕上げを施した場合は、下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が特定不燃材料の場合は除外されます。

(単位：mm)

遮熱板なし						
離隔距離	A	B	C	D	E	F
	795	985	643	795	795	1037

遮熱板あり						
離隔距離	G	H	I	J	K	L
	407	597	325	477	300	542
遮熱板の幅 (最小離隔時)	a	b	c	d	e	
	900	1208	452	517	863	
遮熱板の高さ (最小離隔時)	a	b	c	d	e	
	1100			1100		

煙突から可燃物の間は下記に定めた火災予防上安全な離隔距離を設けてください。

(単位：mm)

	壁 ※ 3	天井 ※ 3
シングル煙突（一重室内煙突） 遮熱板 ※ 1 なし	381	458
シングル煙突（一重室内煙突） 遮熱板 ※ 1 あり	280	
断熱二重煙突 ※ 2	150	150
断熱二重煙突 ※ 2（自在管）	300	300

※ 1 遮熱板とは 25mm 以上の空気層のある不燃材壁。

※ 2 断熱二重煙突は煙突火災に対する熱衝撃テストに合格した認定品（UL 103、BS EN1856-1）をご使用ください。

※ 3 離隔距離は内側煙突からの寸法。

●据え付け後の確認

煙突の据え付け状況は住宅の構造などにより異なります。点検や煙突掃除など、後の保守メンテナンスの方法については、販売店、または据え付け業者とよくご相談ください。

●既存の煙突にストーブを据え付ける場合

既存の煙突にストーブを据え付けた場合に、隠れた瑕疵により排気漏れや火災が発生するおそれがあります。必ず販売店にご相談ください。

●煙突のドラフト（排気）性能

排気の流れを生み出す力を「ドラフト」と呼びます。機械的ではない自然なドラフトによる薪ストーブの燃焼では実に多くの要件によってその効果がもたらされます。

詳しくは 26 ページ「ドラフト管理」をご確認ください。

⚠ 警告

ストーブを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器の影響により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取り込めないと、不完全燃焼が起こる他、一酸化炭素等を含んだ煙が部屋に漏れて、健康に害をおよぼすおそれがあります。

一酸化炭素検知機能の付いた火災警報器の取り付けをおすすめします。

ストーブを設置する部屋の壁などには、ストーブの燃焼に必要な空気量を不自由なく取り込めるように屋外へ直接通じる給気口や給気ダクトを設けてください。屋外側の給気開口部はゴミや雪などでストーブの燃焼が妨げられない場所に設けてください。

床、もしくは壁の給気開口から本体空気取入口までの接続方法については、部屋の換気設備の種類などにより異なりますので、お買い上げの販売店にご確認ください。

[illegible]

薪について

5

使用する薪の条件

薪について

⊘ 自然薪以外の燃料使用禁止

乾燥した自然の薪以外は燃やさないでください。化学物質や塩分等が含まれている薪は、有害物質が発生し健康に害をおよぼすほか、破損の原因になります。

⊘ ガソリン厳禁

ガソリン、軽油、灯油、またはオイルなど引火しやすい油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

●薪の乾燥

切られてすぐの生木は、重量の 50% が水分です。薪として燃やすには水分を 20% 以下まで乾燥させる必要があります。薪は割ることにより空気に触れる表面積が大きくなるのでより早く乾燥させることができます。割った薪は風通しが良く雨のあたらない屋根の下で、少なくとも 12 ～ 18 ヶ月は乾燥させてください。薪は太さや樹種にもよりますが、冬に切って 2 年間乾燥させた薪が理想の薪といえます。

乾燥していない薪は、薪ストーブの性能を十分に引き出すことができません。暖まりにくく、燃やすとクレオソートやススが多く発生し煙突内に付着するので、煙突掃除をこまめにしなければ「煙突火災」の原因になります。またドアガラスの汚れの原因にもなります。



↑含水率計
針を薪に差し込むと薪の乾燥度がひと目でわかります。

●薪の種類

薪は針葉樹系の軟木と広葉樹系の堅木とに分けることができます。軟木は乾燥しやすく着火力に優れていますが、火持ちがよくありません。堅木は、その逆の性質をもっています。十分に乾燥していても、なおズッシリと重い薪が質量に富み、暖房用には優れた薪といえます。

●使用する薪のサイズ

アスペンで使用する薪の長さは 30 ～ 35cm が最適な長さです。

温度や燃焼時間を調節するために、大きく分けて「焚き付け用」「中くらい」「長時間用」の 3 種類の薪を用意します。たき火の火を起こす時のように細い薪や枯れ枝に着火し、徐々に太い薪をくべていきます。薪を使い分けることで、薪ストーブの温度や燃焼時間を調節しやすくなります。



焚き付け用の細い薪
(小枝や細く割った針葉樹など)



中くらいの薪
(直径約 5cm 以内の小枝や細く割った針葉樹など)



長い時間燃やすための太い薪
(直径約 10cm 程度の広葉樹など)

注意

屋外で保管されていた冷たい薪や濡れた薪をストーブにくべないでください。燃焼状態が悪くなり暖房効率が落ち、ストーブに熱衝撃を与え破損することがあります。室内で半日以上経過した薪をご使用ください。

堅木	軟木
火持ちがよく暖める力が大きい	火持ちはよくないがすぐに火力がでる
(広葉樹) ・ミズナラ ・コナラ ・クヌギ ・アカシア ・ブナ	(針葉樹) (広葉樹) ・カラマツ ・アカマツ ・スギ ・ヒノキ等 ・シラカバ ・ポプラ等



詳しくは
ホームページで
「薪づくり」

●グレンスフォッシュ・ブルーク



【手斧】

片手用の小型斧。焚き付け用に薪を細く割ったり、細枝を切ったりするのに便利。



【薪割り鉋^{づち}】

斧頭が鉋を兼用する薪割り。割れにくいときは、この斧頭で楔を打ち込んで割ります。



【小型薪割り】

両手、片手兼用の薪割り。小径木の玉割り材を割るときに。



【薪割り楔^{くさび}】

薪割りでは割りにくい薪を割るための鋼鉄製の楔。2本の楔があれば、ほとんどの薪を割ることができます。



【大型薪割り】

両手用の本格的な薪割り。



●キンドリングクラッカー

焚き付けが安全に、しかも手軽に作れます。

動画で
Check!



「キンドリングクラッカーの
使い方」

●薪を入手するためのヒント

- ・地元の森林組合、または営林署に問い合わせ
て購入する。
- ・薪業者（燃料屋）から購入する。
- ・チップ工場に問い合わせるか、原木を納入して
いる業者に卸してもらう。
- ・果樹園で剪定した木を譲ってもらう。
- ・山林地主と知り合いになり、間伐材を譲って
もらう。
- ・地元の役場に問い合わせ、公園の木や街路
樹の剪定枝を払い下げってもらう。

焚き方と燃焼維持

6

焚き方と燃焼維持

❗ 慣らし焚きの必要性

ストーブを焚き始める前に、必ず「慣らし焚き」を行ってください。焚きはじめての数回は、ストーブと煙突に塗られている錆び止め油や塗料が熱せられ、においと煙が発生しますので、窓や戸を開けて室内の換気を行ってください。いきなり高温で使用すると、破損のおそれがあります。

⚠ 高温やけどに注意

燃焼中や消火直後はストーブ、および煙突が高温になりますので、手などを触れないでください。やけどの原因になります。ストーブを操作する際は、燃えにくく断熱効果のあるグローブを必ず着用してください。

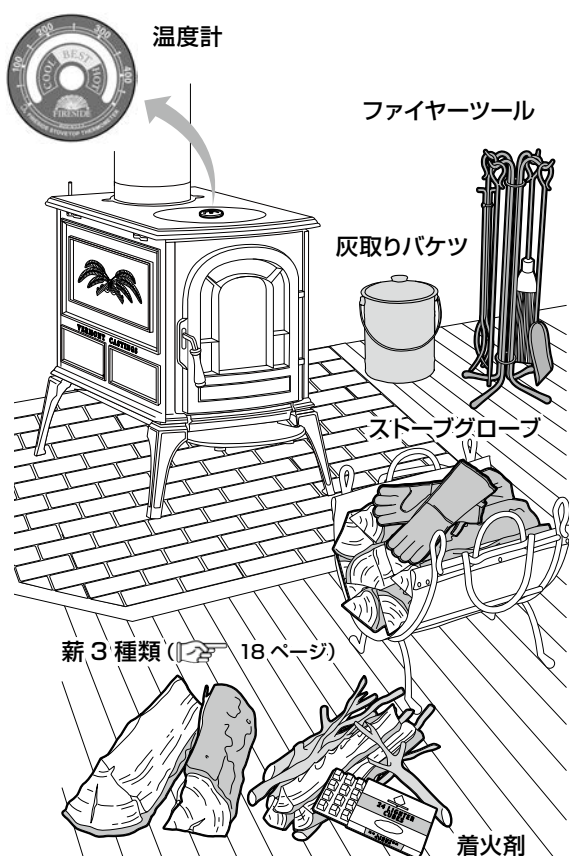
⊘ フロントドアを開けたままの使用禁止

フロントドアを開けたまま使用しないでください。また、フロントドアが閉まらないような長い（太い）薪はくべないでください。煙や火の粉が室内に漏れたり、火がついた薪が室内に転がり落ちるなどして、火災の原因になります。

❗ 換気扇使用時のご注意

ストーブの燃焼中に換気扇を使用すると、ストーブや煙突接続部から室内に煙が漏れることがあります。異常に気付かれた場合には換気扇を止め、販売店にご相談ください。

着火の前に用意するもの



● 温度計

ストーブの状態を知るのに欠かせないツールです。危険な過燃焼を防ぐために、火力調整操作のタイミングの目安になります。

● ファイヤーツール

- | | | |
|------|---|-------------------------------|
| 火かき棒 | ／ | 燃焼室の薪の位置を変えたい時に |
| スコップ | ／ | 灰をすくう時に重宝します |
| ほうき | ／ | ストーブまわりのお掃除に |
| 灰かき棒 | ／ | 燃焼室の灰を灰受けに落としたり、灰をかき集めるのに使います |
| 薪ばさみ | ／ | 燃焼室に薪を入れる時に |

● ストーブグローブ

熱に強い革素材の物が適しています。薪をくべる時やハンドルなどの操作時に熱から手を保護してくれます。

● 灰取りバケツ

密閉できる金属製の容器を必ず使用します。

● 着火剤

● 薪 3 種類 (18 ページ)

慣らし焚きについて

- 本格的な運転を行う前に、必ず慣らし焚きを行ってください。
(☞ 21 ページ「着火」 1 ～ 5)
- 焚きすぎの目安となる情報を得るために、運転中は必ず温度計をご使用ください。
- 乾燥が不十分な薪は燃えが悪く暖房効率が低下します。乾燥した薪をご使用ください。



新品の本体、および煙突は塗料が完全に硬化していません。慣らし焚きの熱により塗装が徐々に硬化していきますが、完全に硬化するまで塗装の表面から臭いと煙が発生しますので、窓や戸を開けて室内の換気を行ってください。

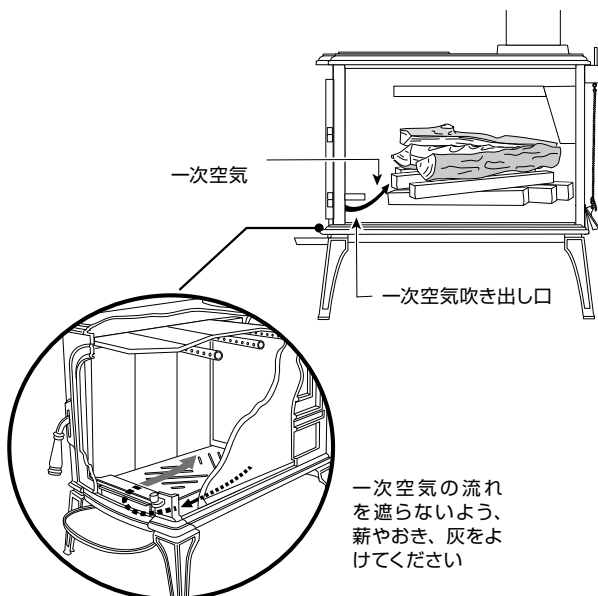
● 慣らし焚きの目的

- 塗料、および接着剤（モルタル）を硬化させる
- 熱による膨張伸縮により組み立て部品を馴染ませる
- 適正なドラフトが得られるかを確認する
(☞ 22、28 ページ)
- 焚き方に慣れるための試用的な運転

着火

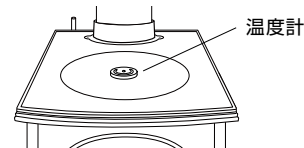
焚き始める前に

- 部屋の給気口（レジスター等）を開けてください。
- 焚き始める前にフロントドア近くの一次空気吹き出し口が、灰などで空気の流れが遮断されていないか確認してください。一次空気吹き出し口が詰まってしまった場合は、32 ページの掃除方法に従い掃除を行ってください。

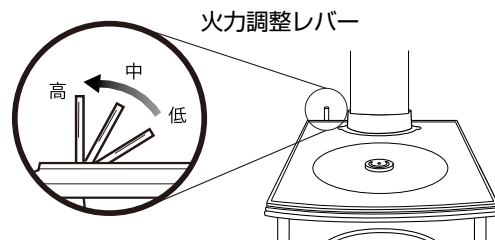


「慣らし焚き」は、「着火」の 1 ～ 5 の手順で行ってください。

- 1 温度計をトップ（天板）の中央に置きます。



- 2 火力調整レバーを反時計回りに止まるまで回し「高」にします。



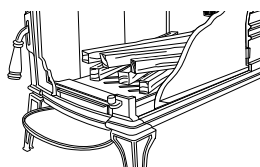
焚き方と燃焼維持

6

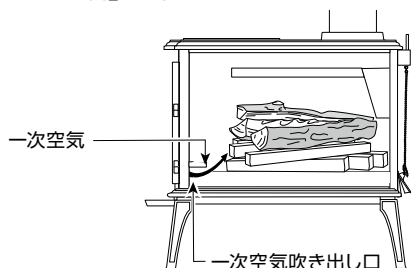
着火

3 フロントドアを開け、着火剤 1～2 個を入れ、着火剤の上に「焚き付け用の薪」を空気の通りが良くなるように隙間をあけながら組みます。

- 慣らし焚きの場合 …………… 6～8 本
- 慣らし焚きが終えている場合 … 12～14 本

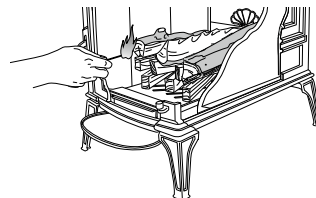


4 隙間をあけながら、さらに 2～3 本の「中くらいの薪」を組みます。



ポイント 前から流れる一次空気の通りが良くなるよう、手前に隙間をあけて薪を配置してください。35 センチ以内の長さの薪を燃焼室の奥まで入れてください。燃焼室上部のステンレスパイプまで5センチ程度の空間を開けてください。

5 着火剤に点火してください。薪に燃え移ったあと、フロントドアをロックせずに少し開けて炎の状態を観察します。薪が全体に勢い良く燃えてきたらフロントドアを閉めロックします。ドアを開けている間はストーブのそばから離れないでください。



注意 フロントドアを開けたまま使用してはいけません

ストーブのドアを開けたまま運転すると、過剰なドラフトを引き起こす、もしくは室内に煙が漏れる原因になります。本書で指示がある場合を除き、燃焼中はドアを閉めた状態でご使用ください。

投入した全ての薪の表面に炎が完全に行き渡ったら、炎の状態と温度計を確認しながら過剰燃焼にならないように火力調整レバーで燃焼速度を制御してください。

🔧 23 ページ「火力調整方法」

- 慣らし焚きの場合 …… 260℃以下
- 慣らし焚きが終えている場合 …………… 350℃以下

【ドラフト(上昇気流)を起こす】

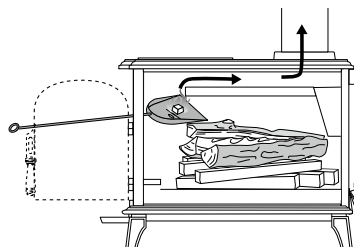
うまくつかない、燃えない、逆流する…そんな時は

煙突が冷えていると、ドラフト(上昇気流)が弱く、うまく着火しない、燃えない、逆流するなどの問題が起こる場合があります。このような場合は、煙突につながる排気の通り道付近に火をかざし煙突をよく暖め、ドラフトを発生させる手助けをします。慣らし焚きの手順 **4** の段階で下の手順で煙突を暖めてください。

1 ファイヤーツールのシャベル等の上で着火剤を燃やします。

2 フロントドアを開けた状態で、煙突につながる排気の通り道付近に着火剤をかざし、煙突をよく暖めます。

3 ドラフトが発生したら着火方法 **5** に従い、薪の着火を始めます。



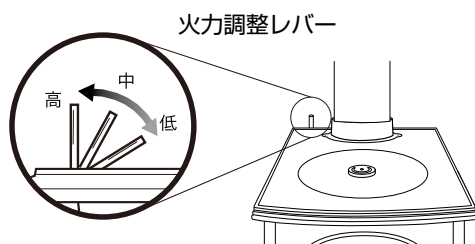
ポイント ドラフトが発生すると着火剤の火が煙突方向に引き寄せられます。

● 火力の調整方法

本体左後ろの火力調整レバーで調整します。

強くする 火力調整レバーを反時計回りに回すと、火力が上がります。

弱くする 火力調整レバーを時計回りに回すと、火力が下がります。



慣らし焚きの場合は、これ以上薪を入れるのをやめ、薪が燃えつきるまで放置してください。3～4回繰り返して慣らし焚きは終了です。

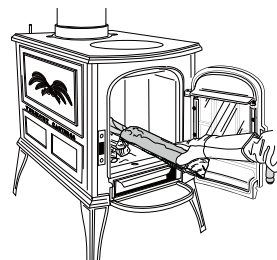
補足 上方より着火する方法

③～⑤に代わり、組んだ薪の上から下に火を移していく着火方法があります。グレートの上に「中くらいの薪」その上に「焚き付け用の薪」を組み、最後に着火剤を組んだ薪の上に置いて着火します。

この方法は、着火初期の煙の排出量を抑える効果がありますが、十分な焚き付け用の薪（場合によってはさらに細かな小枝など）が必要です。

「慣らし焚き」終了後の通常の着火手順は、①～⑤のあと、⑥に進みます。

6 薪が少なくなって炎の勢いが弱くなってきたら、火力調整レバーを反時計回りに回し「高」にします。フロントドアを開け中くらいの薪を数本足し、ドアを閉めロックしてください。



7 薪が全体に勢いよく燃えてきたら、炎の状態と温度計を確認して 350℃以内で過剰燃焼にならないように火力調整レバーを操作します。

少なくとも5cmの深さの赤々としたおき床が全体にできるまで、このサイズの薪を追加し続けます。適切な機能を得るためには良い火床が必要で、おきがたまるまでに1時間ほどかかります。

注意 ストープ内に薪をいっぱいにくべないでください。燃焼室の上部にあるステンレスパイプより5cm程度空間を開けてください。薪がくずれてガラスに当たらないように注意してください。

⚠ 焚きすぎ注意

- 燃焼室に薪を入れすぎないでください。
- ストープ天板の温度は 350℃以上で使用しないでください。一時的に越えても問題ありませんが、連続して 350℃以上で使用すると火力が強くなり、ドアを開けたときに炎が漏れる、またはストープや煙突が過熱され、破損の原因になります。
- ストープが部分的に赤熱している時は過剰燃焼です。火力調整レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。

焚き方と燃焼維持

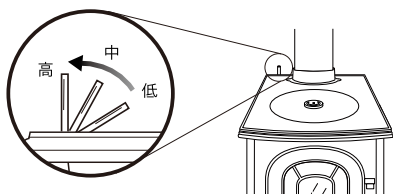
6

薪の追加

焚き方と燃焼維持

5センチ以上のおきがたまり、まだ赤く熱いうちに薪を追加します。おきがなくなり着火しない場合には、21 ページの着火 ❶ から行うことになります。

1 火力調整レバーを反時計回りに回し「高」にします。

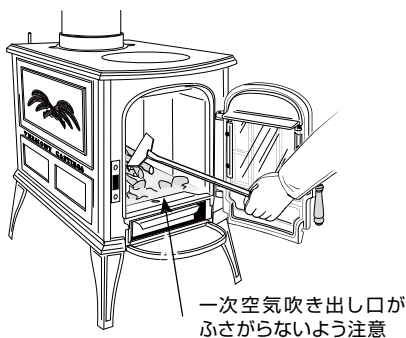


2 ドアを開き、ファイヤーツールを使用して大きなおきは碎き、火室の前方に寄せます。薪が前方から燃え出し効率的な燃焼になります。ただし、一次空気吹き出し口をふさがないように注意してください。

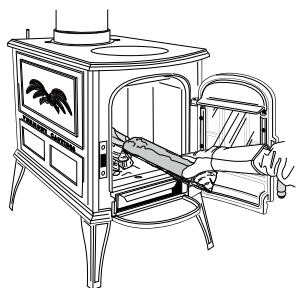
注意 燃焼室前方の一次空気吹き出し口が灰でふさがると、燃えが悪くなり温度が上がらない、ガラスがくもる等の影響が出ます。

🔧 22 ページ「ポイント」

32 ページ「一次空気吹き出し口の掃除」



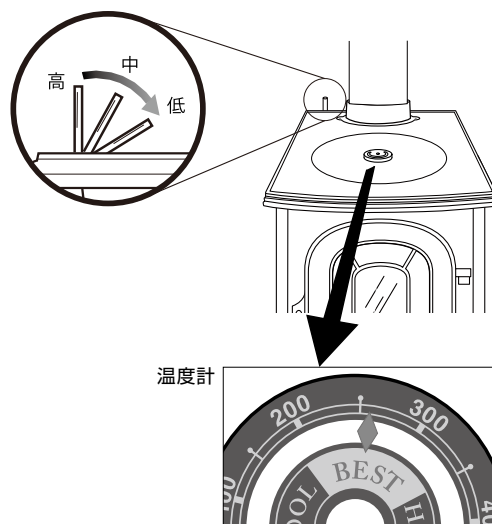
3 太い薪を数本くべ、ドアを閉めロックしてください。



注意 長く燃やしたい時には太めの薪 (直径 10cm 程度) を入れてください。細い薪を多量に入れると高い温度での燃焼が続き、過剰燃焼になります。

注意 薪を投入する時は、勢いよく入れないでください。耐火レンガが破損することがあります。

4 数分後、薪が全体に燃えて安定したら火力調整レバーを希望の出力が得られる位置に動かします。



温度計の温度について

200℃
以下

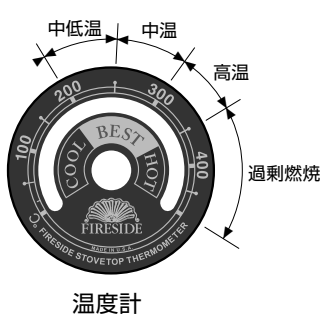
火力が弱いです。火力調整レバーで燃焼出力を上げるか、ストーブに薪を補給する温度です。

200 ~
350℃

火力が上がり、燃焼効率が良好な状態です。

350℃
以上

過剰燃焼です。火力調整レバーで給気量を減らし火力を下げてください。



【温度の目安】

- 200 ~ 250℃ 中低温
- 250 ~ 300℃ 中温
- 300 ~ 350℃ 高温

ポイント

通常の運転温度は 200 ~ 350℃ の間です。温度計がこの範囲を示すように火力調整レバーを操作してください。

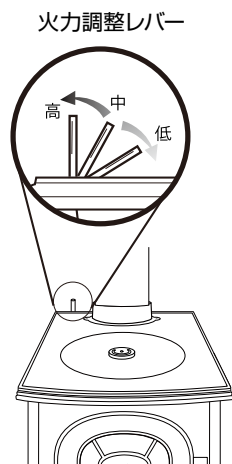
火力調整レバーの位置と温度の関係は変化します。「薪の質」や「煙突のドラフト(上昇気流)の状態」「気象条件」などに左右されます。ドラフトは煙突の長さ、種類、設置状況、地形、付近の障害物など様々な要因に影響されます。

ストーブを初めて使う際は、火力調整レバーの記録を取ることをお勧めします。特定の設定で一定の熱量を得る方法が分かります。1 ~ 2 週間ほどで、個々の設定から得られる熱量と燃焼時間を判断できます。

● 煙突ダンパーの設置

状況(煙突・薪・気温など)によって、ドラフトが強すぎる場合があります。煙突ダンパーはドラフトを適正に制御することが可能です。

🔧 28 ページ



消火

本製品は、安全構造上、火力調節を全閉にしても燃焼空気の供給は完全には遮断されません。よって、ガストーブや石油ストーブのように瞬時のうちに消火することはできません。薪が燃えつきて灰になった時が消火を意味します。

● 外出するときには

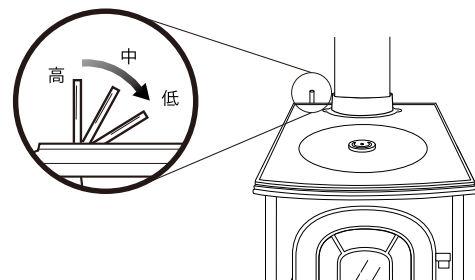
外出する場合は、しばらく前から薪を追加するのをやめてください。

外出の際は、必ずフロントドアが閉まっていることを確認してください。また、周囲にある燃えやすいものをストーブから十分離し、万が一に備えてからお出かけください。ストーブを設置している部屋にペットが入らないようにしてください。

注意

ストーブ本体や燃焼室に水をかけて消火するのは非常に危険です。また、このような急激冷却による消火はストーブ本体に重大な損傷をもたらします。緊急時の処置 (🔧 8 ページ)

- 1 薪ストーブを消化する時は薪をくべるのをやめ、火力調整レバーを時計回りに止まるまで回し「低」にします。燃焼空気の供給が少なくなり、火の勢いが徐々に落ち、ゆっくり燃えつきます。



注意

まだ燃えている薪が残っていて火力が強いうちに空気を絞りすぎるとバックパフingを起こすことがあります。それを防ぐには、バックパフingが起これないところまで火力調整レバーを垂直方向に調節します。🔧 28 ページ「バックパフing」

ドラフト管理

7

ドラフト管理

ストーブは使用者、煙突、燃料、そして住宅などから構成される暖房システムの一部です。システムのあらゆる部分がストーブの作動状態を左右します。これらの要素がうまく調和して初めて全体のシステムが適切に機能します。

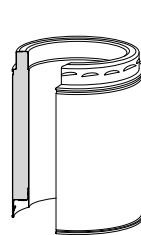
暖炉・薪ストーブの機能は自然のドラフト（上昇気流）で決まります。ドラフトは煙突の周囲の外気温より、煙の温度が高い場合に生じます。その温度差が大きいほど、ドラフト作用も大きくなります。燃焼室内の高温気体が煙突内を上昇していくと同時に、燃焼用の空気をストーブに引き込む吸引力が生じます。

一次空気取入れ口を開くことによって火が活発化する場合は、ドラフトが適切であることを意味します。ストーブの一次空気取入れ口を全開にした状態にもかかわらず、火が活発にならない場合はドラフトを妨げる何らかの問題が疑われます。ドラフトが弱い場合、一次空気取入れ口を開いてもストーブ内に空気を取り入れることができず、火力の調節はできません。

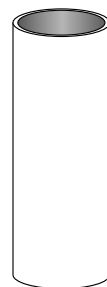
システム構成の中で、煙突はドラフトを支配する大きな要因です。煙突の断熱性能や煙突の直径、煙突のレイアウトなどによって、ドラフトが早く生じる場合もありますし、正常なドラフトが得られる温度差に達するまで時間がかかる場合もあります。特に断熱性能においてはストーブの燃焼室内で発生した高温気体の熱を屋外に排気させるまで保持することが重要になります。以下に煙突の種類による特徴とその効果を挙げます。

●シングル煙突（一重室内煙突）

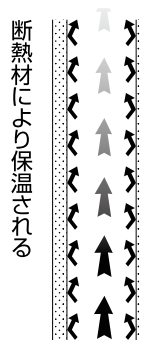
シングル煙突（一重室内煙突）は名前のとおり、煙突の中と外を金属製の板で仕切られた円筒です。よって、煙突内部の熱は外部に放射されやすく、スズやタールなどが煙突内部に付着し排気の抵抗となり、ドラフト効果が弱まります。



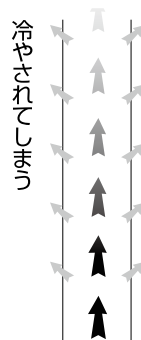
断熱二重煙突



シングル煙突
（一重室内煙突）



断熱二重煙突



シングル煙突
（一重室内煙突）

●断熱煙突

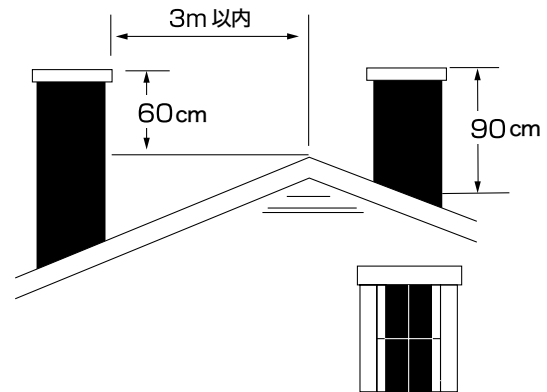
断熱煙突は内管と外管の間に、断熱材が充填された円筒です。断熱層により煙の温度が屋外に排気されるまで保たれ、安定したドラフト効果を得ることができます。断熱煙突はドラフト効果を得るだけでなく、壁や屋根裏などの貫通部において、防火上重要な役割を果たします。

●屋内／屋外の設置

煙突は煙を保温する必要があるため、できるだけ屋内に立ち上げるのが有効です。この方法は、住宅自体が煙突の断熱材の役割を果たし、屋外に熱を失うことがないため、より少ない熱量で煙突を暖め、また保温することができます。

●煙突の高さ

煙突の高さは最低5m以上とし、「60cm、90cm、3m 煙突基準」の安全条件を十分満たしていれば、有効なドラフトが得られると考えられています。この基準はドラフトばかりではなく煙突火災時の煙突周り延焼防止になります。煙突の高さは高い方がより良いドラフトを生むと考えがちですが、基準以上に高さを加えることはドラフト問題の正しい解決策ではありません。実際、問題を悪化させることもあります。高い先の方の煙突が冷えてしまうからです。煙突の高さは必要以上に伸ばさない方が良いでしょう。



3m煙突基準

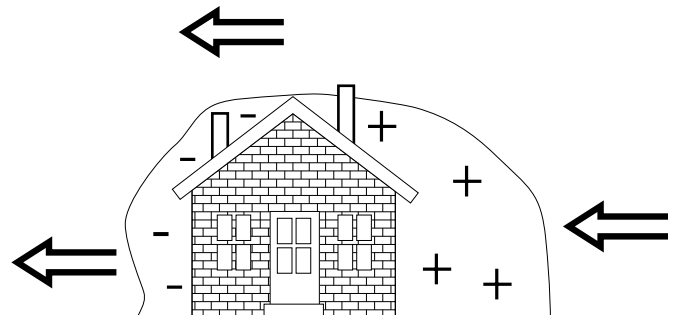
●煙突径

煙突の内側寸法は、ストーブの排気口寸法と一致しなければなりません。煙突が気密性のあるストーブに接続される場合、大きめの寸法は好ましくありません。それどころか、不利になる場合があります。煙は膨張により熱を失います。

●煙突のレイアウト

煙は煙突のトップまで上昇する過程で、曲がりがあるたびに抵抗となり速度が落ちます。理想的な煙突のレイアウトはストーブから垂直に真直ぐ伸ばす方法です。

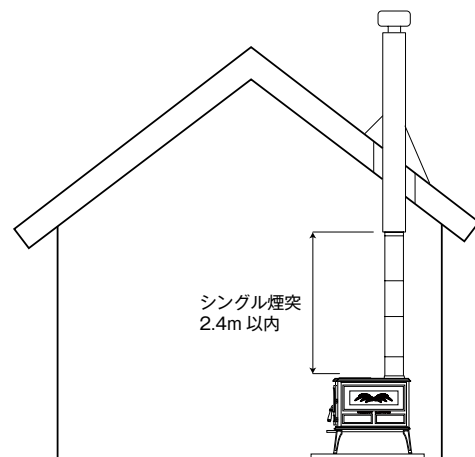
シングル煙突（一重室内煙突）を使用する推奨長さはフルカラーから2.4m以内とします。家の断熱性能にもよりますが、これより長いと煙が冷却されドラフトが弱まり、またクレオソートの問題が生じる可能性があります。



※風が吹くと建物のまわりは圧力の差ができます。煙突はこの風圧帯より上まで立ち上げる必要があります。

●単一排気

ストーブにはそれぞれ専用の煙突が必要です。気密性のあるストーブが他の開放型の暖炉やストーブの煙突に接続されている場合、煙突のドラフトは気密性の高いストーブ以外の別の経路から空気を引き込むため、効果が落ちます。ホースに穴が開いた掃除機を仮定すると、この状況をよく理解することができます。場合によっては、煙が逆流するおそれもあります。



※ 2.4m 以内の数値は、メーカーの推奨値。
現場によって異なりますので、販売店にお尋ねください。

ドラフト管理

7

ドラフト管理

●クレオソート

クレオソートは薪（特に湿った薪）がゆっくり燃焼した時に生じます。クレオソートは煙の濃度が高い、または排気の色が遅く、煙が 130℃以下に冷やされると、煙突内に蓄積する有機タールです。蓄積されたクレオソートは揮発性で、一定の温度以上に加熱されると煙突火災を発生させるおそれがあります。

煙突のドラフトを左右する全ての要素は、クレオソートの蓄積にも影響します。従って、正しい煙突レイアウトと燃焼操作で適切なドラフトを促し、クレオソートの発生を最小限に抑えてください。

●燃料

最適な方法でストーブが設置されていても、燃料の質が悪いと効果が出ません。最適な燃料は、12～18ヶ月間乾燥させた堅木です。軟木でもかまいませんが、堅木ほど火持ちが良くありません。

「乾燥させていない」薪は大量の水分を含んでいるため、熱量は薪に残る水分の除去に使われてしまいます。結果的に、暖房にまわる熱量が削減され煙突内部の温度も上がらず、クレオソート発生の原因となります。

薪の乾燥具合を知るには、水分量がひと目でわかる薪用の含水率計がおすすめです。薪は乾燥するにつれて収縮し、ひび割れが出てきますので、ひびの入った薪ほど乾燥していることになります。

●バックパフィン

煙突のドラフトがストーブから燃焼ガスを引き出すより早い速度で、薪が揮発性ガスを発生させた場合にバックパフィンが生じます。ガスは点火に十分な濃度と温度になるまで、燃焼室に待機します。ストーブがバックパフィンを起こした場合は、火力調整レバーを開放し空気を送り込んで煙を早く煙道へ送り、大きな薪の使用を避けてください。燃焼室の中の炎は常に鮮やかにゆらめいている状態に保ちます。煙が多く速度の遅い火は効率が悪く、煙突内にクレオソートを堆積させます。

●ドラフト試験

ドラフトの不具合において、ドラフトが過剰な場合の兆候としては、火力調整レバーで制御不可能な燃焼や、ストーブの一部が赤熱することが挙げられます。また、弱いドラフトの兆候としては、ストーブや室内煙突接合部からの煙の漏れ、弱火、ガラスの汚れなどが挙げられます。

煙突ドラフトの簡単な試験方法は、火力調整レバーをしぼり、気流が安定するまで数分待ってから、火力調整レバーを開け閉めして、火の強弱が調節できるかどうかを観察する方法です（火力調整レバーを操作してから、火の状態が変わるまで数分かかることもあります）。火が調節できない場合は、ドラフトが足りないのかもしれませんが、火力調整レバーをもうしばらく開放しておき、ドラフトが強くなるまで待ちます。

燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作状態を関係付けていくと、お客様の設置状況に合った燃焼方法が見つかるでしょう。

●煙突ダンパー

状況（煙突・薪・気候）によって、ドラフトが強すぎる場合には煙突ダンパーを設置してドラフトを適正に制御することが可能です。

ドラフトの弱い煙突や気密の高い住宅、ストーブと同一の部屋に換気扇が設置してある場合など、室内の気圧がマイナスになる状況では煙突ダンパーの設置は必要ありません。場合によっては排気が室内に流出し危険をともなうことがあります。販売店にお問い合わせください。

●負圧

最適なドラフトはストーブへの給気量にも関係します。煙突は自然に得られる空気だけを引き込むことができます。

住宅の気密性が高く、ストーブへの給気が妨げられる場合や、室内空気を屋外に排出する他の設備（特にレンジ・フード、衣類乾燥機・機械換気設備のような動力駆動設備）がストーブと空気を取り合う場合、ドラフトの障害になります。ストーブ以外のそうした設備の運転中に、ストーブが十分な空気を取り込めるのであれば問題はありません。近くの窓やドアを開けないと煙突が十分な空気を取り込めないのであれば、外気取り入れ口を増設したり、屋外からダクトをストーブに継ぎ、燃焼空気を直接引き入れる必要があります。

●ドラフト管理

ストーブで薪を燃やすということは「機械的な機能」というより「使用者の技術」です。ストーブと煙突が適切に設置されていれば、後は技術（操作のタイミング）を向上させればストーブのシステム全体の機能はより高くなります。

システムを構成する要素によってそれぞれ違う、ストーブの特性にあった適切な技術を得るために、燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作を関連付けていくと、より満足のいく効果を得ることができるでしょう。



点検スケジュール

8

点検・お手入れの区分

注意

- 点検・お手入れを行うときは、ストーブを消火し、ストーブと煙突が十分冷えてから行ってください。
- 本書に記載されているメンテナンススケジュールは、本書に準じたご使用のもとでのスケジュールとなります。ご使用の環境や状態に合わせて行ってください。

■ご使用のたびに

周囲の状態	ストーブ、煙突、および空気取入れ口の周囲は常に整理、掃除し、燃えやすいものを置かないようにしてください。
汚れ	ストーブはいつも清潔に掃除してください。汚れたままのご使用は錆の発生などでストーブの劣化を早めます。
ほこり	ストーブや煙突に付いたほこりや汚れは掃除機で吸い取り、固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。
臭気・煙漏れ	燃烧中に臭いがしたり、煙突から煙が漏れていないか確認してください。異常があれば販売店に連絡してください。
灰	燃烧室内や灰受け皿が灰でいっぱいになる前に、取り出してください。

■気になったときに

ドアガラス	ガラスにススなどが付いた場合、お早めに専用のクリーナーで除去していただくことをおすすめします。特にタール状のものが付着してしまった場合、放っておくと除去に手間がかかります。ガラスに割れが確認されたときは、ただちに使用を中止し、お買い求めの販売店に連絡してください。
一次空気プレート内	一次空気プレート内に灰が入ると燃えが悪くなります。取り外して内部を掃除してください。

■シーズン中2～3回程度

排気経路	煙の排気経路内がススで閉塞する前に燃烧室内と煙突を点検・掃除してください。
一次、および二次空気取入れ口のほこり	一次、および二次空気取入れ口がほこりで閉塞されないように、ブラシや電気掃除機などで取り除いてください。
遮熱板のほこり	ストーブや煙突の遮熱板にほこりがたまった場合は、隙間に入るブラシなどでたまったほこりを取り除いてください。

■シーズン終了後

ストーブの破損	ストーブに変形、損傷やガタつきが認められる場合は、お買い求めの販売店に連絡してください。
煙突	煙突は掃除の後に、外れ、劣化、および煙漏れのないことを確認してください。発見されたら、お買い求めの販売店に連絡してください。
ファイバーロープ	弾力性がなくなり、ほつれ等の劣化が見られるファイバーロープは新しいものと交換してください。
フロントドアの調整	ロックが緩く（またはきつく）なった場合は、フロントドアの調整をしてください。
灰・ススの除去	ストーブ内の灰やススは、残しておくとし、湿気が溜まり錆の原因になりますので、全て取り除いてください。
塗装	ストーブの塗装がはがれた場合は、錆の発生を防ぐため専用の補修スプレーを使って、表面を保護してください。

■地震、洪水、落雷などの災害が発生したときの点検について

地震、水害、落雷などの天災地変にあった場合はそのまま使用せず、必ずお買い求めになった販売店、または専門業者に点検をご依頼ください。隠れた不具合に気づかず使用し続けると、火災の原因になります。

❗ 定期点検の実施

お客様ご自身で行われる日々のメンテナンスのほか、定期的（5年に1回程度）に専門業者の点検・整備を受けてください（有料）。点検を受けずに長期間使用し続けると、経年劣化等により、故障や事故の原因になります。

別紙「あんしん点検のご案内」

ストーブと煙突をより良い状態で、快適かつ安全にお使いいただくために、ファイヤーサイドでは購入後、5年を経過したお客様に「あんしん点検」をご依頼いただきますようお願いしています。お買い求めの販売店、または当社にお問い合わせください。

■定期点検の案内

項目	内容
給排気経路の点検・掃除	給気ダクト、燃焼室内、および煙突の接続部や支持部、閉塞、劣化の点検と掃除。
機能部品の点検・交換	パーツリスト図番【H6、H18、H19、H37】  別紙「パーツリスト」
消耗部品の点検・交換	各接続部のファイバーロープ。
装置のはたらき	可動部の調整、および操作部品の点検・交換。
防火設備	炉台、炉壁、周囲可燃物の点検。

※次の症状が認められた場合は、すぐにお買い求めの販売店まで点検をご依頼ください。

- 煙突火災を起こした
- 煙突掃除で灰やススの他に、金属片や断熱材が混入
- フロントドアが閉まらない
- ストーブや煙突の内部に歪みや破損が認められた
- 火力調節ができない
- ストーブや煙突が赤熱した
- 煙突が外れている、または強い異臭がする
- 煙突やストーブがガタつく

■本製品のパーツの保有期間は、製造終了から10年です。

メンテナンス

9

灰の掃除

メンテナンス

❌ 灰を可燃性の容器に入れない

ストーブから取り出した灰を紙袋やビニール袋など可燃性のものに絶対に入れないでください。火災の原因になります。

⚠️ 灰をためすぎない

燃焼室や灰受け皿を灰でいっぱいにしてしないでください。一次空気吹き出し口がふさがれて燃焼が不完全になる他、薪やおきが外にこぼれたりドアが閉らなくなり、焚きすぎによる破損の原因になります。

注意

危険ですから燃焼中は灰の処理を行わないでください。ストーブが完全に冷えた状態で行ってください。

定期的な灰の除去は、ストーブの耐久性にとっても重要な作業です。灰受け皿の縁まで溜まる前に以下の手順に従って処理してください。また、数日ごとにグレートの灰をスコップや灰かき棒でかき落とし、ストーブ内部の灰を取り除きます。

1 フロントドアを開け、グレートのすき間から灰をスコップや灰かき棒で灰受け皿に落とします。

2 灰受け皿の引き出しをゆっくり引き出し、灰を灰取バケツ等に移します。中のこぼれた灰もきれいに取り除きます。

ポイント

薪が長い、または前方で燃やすと、一次空気プレートの下に灰がたまりやすくなり、プレート下の一次空気吹き出し口をふさぐ可能性があります。

🔧 「一次空気吹き出し口の掃除」

●灰の処分について

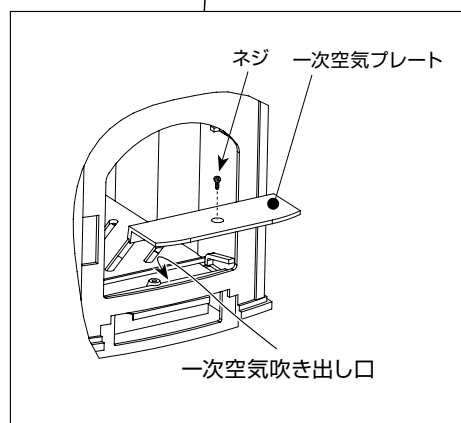
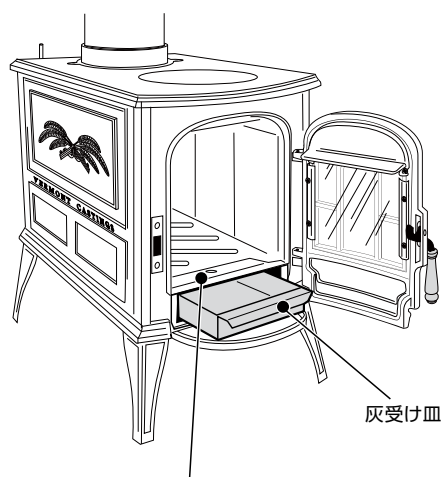
取り出した灰は火災のおそれがないように、密閉できる金属製の容器に移します。その際、周りの可燃物から遠ざけて、厚み 5cm 以上の金属以外の不燃材の上に置き、72 時間以上経過させ、灰の中に火の気がないことを確かめてから処分してください。

一次空気吹き出し口の掃除

一次空気プレート内部の一次空気吹き出し口から灰が入り込み蓄積すると、燃焼に必要な空気の量を減らし、燃えにくくなります。薪が燃えにくく感じたら灰の除去を行ってください。

1 一次空気プレートを固定しているネジを外し、一次空気プレートを外します。

2 一次空気吹き出し口に溜まった灰を、除去します。一次空気プレートを戻しネジで固定します。



本体のお手入れ

❌ 分解・改造使用の禁止

本書に記載されているメンテナンス以外の分解、および改造はしないでください。火災や破損の原因になります。

注意

お手入れを行うときは、ストーブを消火し、ストーブと煙突が十分冷えてから行ってください。また、安全のため、ゴーグルやマスク、グローブ等の安全衛生保護具を着用してください。

必要工具等

- ・ワイヤーブラシ
- ・ウェス(布)
- ・耐熱塗料、またはストーブポリッシュ

● 日常のお手入れ

本体全体のほこりや汚れを乾いた布、もしくは水に浸した後、きつく絞った布を使って、表面の汚れを落としてください。ストーブ表面に水分が残らないように注意してください。

● 塗装の剥がれ 劣化した場合のお手入れ

1 ワイヤブラシで錆や古い塗装を落とし、乾いた布で本体全体のほこりや汚れを拭き取ります。湿らせた布を使う場合には、ストーブ表面に水分が残らないように注意してください。

2 専用の「耐熱塗料」(スプレー)、または専用の「補修磨き剤」(ストーブポリッシュ)をご使用ください(いずれも別売り)。

専用の「耐熱塗料」(スプレー)を使用する場合

劣化部分、または本体全体を塗装してください。新しいスプレーで塗装する場合、周囲の色と違いが出る場合がありますので、目立たない部分で試し塗りすることをおすすめします。スプレー作業中は十分な換気を行ってください。

ポイント

ドア部分にスプレーする場合はドアを取り外すなど、ガラス表面に塗料が付着しないようにご注意ください。その際、周囲に塗料が飛び散らないようにダンボール等を敷いてい行います。

専用の「補修磨き剤」(ストーブポリッシュ)を使用する場合

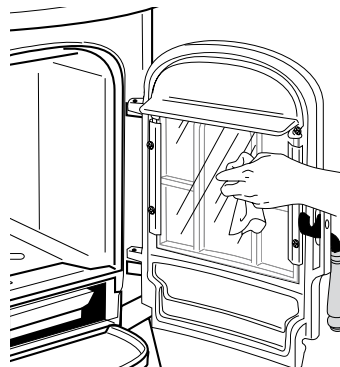
専用補修磨き剤(ストーブポリッシュ)を柔らかいブラシでのばし、ウェス(布)で拭き取り磨きます。周囲の色と違いが出る場合があります。

ドアガラスのお手入れ

必要工具等

- ・ウェス(布)、またはペーパータオルなど
- ・ガラスクリーナー

専用の「ガラスクリーナー」(別売り)を布に付けて汚れをよくふき取り、自然に乾かしてください。タールなどで汚れがひどい場合は、研磨剤を含んだクリーナーが有効ですが、継続的に使用し続けると、ガラスの表面を傷つけるおそれがありますのでご注意ください。



動画で
Check!



「ストーブ表面の補修」



「ドアガラスの掃除」

メンテナンス

9

ドアガラスの交換

メン
テナ
ンス

- ドアガラスが破損した場合はご使用をやめ、新しいガラスと交換してください。
- ガラスを扱う際は、ケガを防止するために、必ずグローブを着用してください。

必要部材

・交換用ガラス 品番 30000362

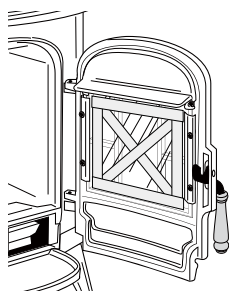
必要工具等

・ガムテープ等
・毛布、またはダンボール等
・プラスドライバー

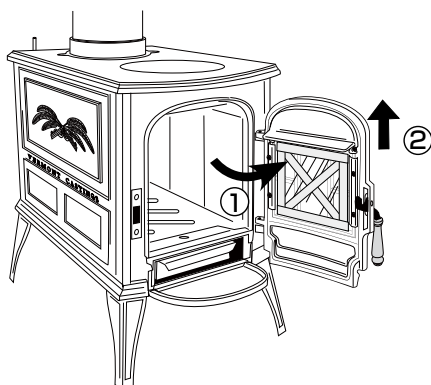
注意

必ずパーモントカスティングスの純正耐熱セラミックガラスをお使いください。その他の代用品は決して使わないでください。
ドアガラスの表側の面には赤外線反射コーティングが施されているため、裏表が決まっています。

- 1** 割れたガラスが飛散しないように、裏からガムテープなどで割れ目をつないでください。



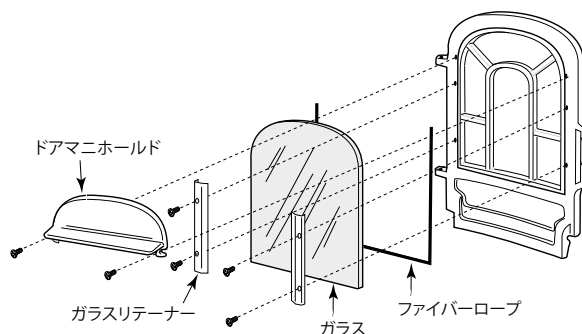
- 2** フロントドアを 90° 以上開き ①、ヒンジピンがヒンジの穴から外れるまでドアを持ち上げ ②、ドアを外します。



注意

外したドアは、表側が下になるようにし、表面にキズがつかないように毛布やダンボール等の上に置きます。

- 3** ガラスに注意をしながら、ドアマニホールドとガラスをおさえている左右のガラスリテーナーを外します。(ビス 2 本ずつ)



ポイント

ガラスとドアの間にはファイバーロープが付いています。ファイバーロープはガラスとドアの間がきっちり密閉できるように、柔らかくて弾力性がなければなりません。ファイバーロープが硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合は交換が必要です。

👉 36 ページ

- 4** 破損したガラスを丁寧に外します。

- 5** 新しいガラスがファイバーロープに均一に当たるようにします。熱反射コーティング側がストープの外側に向くようにし、ガラスリテーナーとドアマニホールドでガラスをおさえ、元のように取り付けます。

注意

ガラスリテーナーを取り付ける際、ビスを強く締めすぎるとガラスが破損するおそれがあります。

ポイント

熱反射コーティング側の見分け方
ガラスに天井の蛍光灯等を映すと、蛍光灯がぼやけて見える側と、はっきりと見える側があります。はっきりと見える側が熱反射コーティング側です。わかりづらい場合、晴れた屋外で対象物を変えながら行くと、より判別がしやすいでしょう。

- 6** ② と逆の要領で、フロントドアを本体に取り付けます。

ファイバーロープの交換

9

メンテナンス

薪ストーブの気密性を保つため、ドアと本体の間、ドアとガラスの間にファイバーロープが使われています。

次のいずれかに該当する場合は、手順に従い新しいファイバーロープと交換してください。

そのままお使いになると、過剰に燃烧空気が入り火力コントロールができなくなります。過燃烧となり燃烧室の中のパーツが歪んだりストーブの劣化を招くばかりでなく大変危険です。

●交換が必要な症状

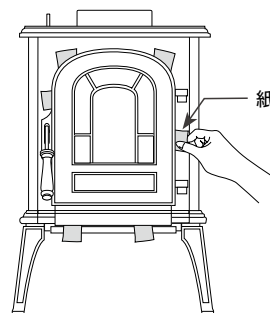
① 劣化や破損

弾力がなく、触るとボロボロとほつれる、または途中で切れている場合。

② 密閉されていない

ファイバーロープは使用に伴い硬くなり、徐々に収縮していきます。気密テストを行い、ドアに隙間が認められる場合は交換が必要です。

●気密テストの方法



紙を長方形にカットし、ドアと本体の間に挟みこんでハンドルをロックします。

ゆっくりと紙を引き出して、抵抗を感じずスルスルと抜けてしまうようであれば密閉がされていません。同じテストをドア周囲の数箇所で行ってください。

備考

弾力はあるが、途中で剥がれてしまったファイバーロープは、耐火セメントや補修専用の接着剤（サーミックシールなど）で再度貼り付けてください。

●ドア部分

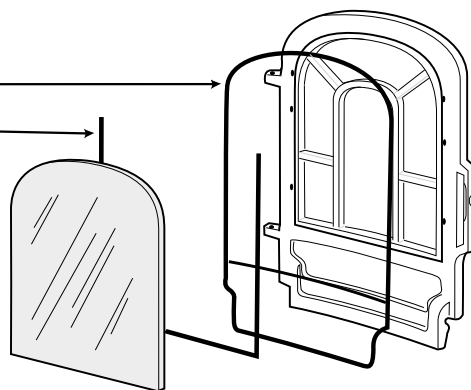
ドア用ファイバーロープ
φ 9.5mm (R722) 長さ 140cm

●ドアガラス部分

ドアガラス用ファイバーロープ
φ 4.76mm (81219) 長さ 60cm

※ドアガラスの上部はエアウォッシュの通気のため、ファイバーロープはつけません。

※ドアガラスの交換方法
34 ページ



●ドア部分は「シリコンシーラント」で接着されていますが「耐火セメント」を使用することもできます。他の部分には「シリコンシーラント」は使用できません。

メンテナンス

9

ファイバーロープの交換

メンテナンス

●ファイバーロープの交換方法

必要部材

- ・シリコンシーラント (R76A)、
または耐火セメントガスケット用 (R77E)
- ・ファイバーロープ

必要工具

- ・ゴーグル ・マスク ・ハンマー
- ・タガネ、またはマイナスドライバー
- ・ワイヤーブラシ ・布 ・マスキングテープ
- ・カッター、またはハサミ ・毛布、ダンボール等

- 1** ドアを外し、作業のしやすい所に置きます。

注意

外したドアは表側が下になるようにし、表面にキズがつかないように毛布や段ボール等の上に置きます。

- 2** 劣化したファイバーロープの端をつかんで、強く引っ張り外します。(図1)

- 3** ワイヤーブラシやドライバーの先端を使って、残ったシリコンシーラントやファイバーロープの破片を溝から取り除きます。(図2)

- 4** 適切なサイズ(太さ)で規定の長さより5cm程長めのファイバーロープを用意し、溝に約3mm厚でシリコンシーラントを注入します。(図3)

- 5** ファイバーロープを溝の一方から押込んでいきます。(図4)

注意

弾力を持たせるため、ファイバーロープは強く伸ばさないようにしてください。

- 6** 溝の終了部分のファイバーロープにマスキングテープを巻き、余分をカットして長さの調整を行います。(図5)

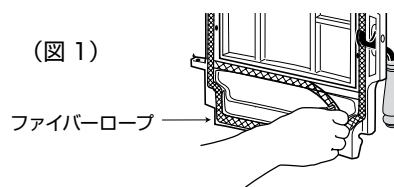
- 7** ドアを閉めて、該当する接触部分をファイバーロープにしっかりと密着させます。

- 8** ドアを再び開け、溝の周辺からはみ出したシリコンシーラントをマイナスドライバーの先で取り除き、ドアを閉め24時間以上常温で乾燥させます。

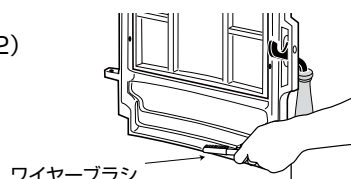
ポイント

使い始めやファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、フロントドアの調整を37ページに従って行います。しばらくしてハンドルの当たりがゆるんできたら、再度調整を行います。なじむまで数回調整が必要です。

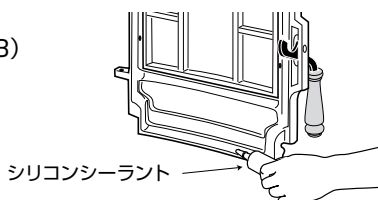
(図1)



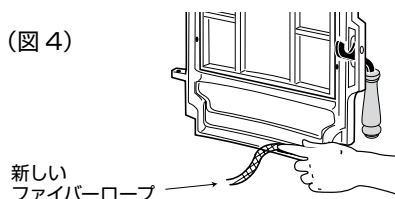
(図2)



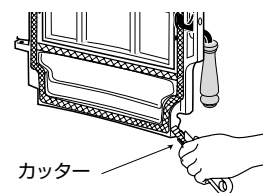
(図3)



(図4)



(図5)



動画で
Check!

「ファイバーロープの交換」

フロントドアの調整

9

メンテナンス

定期的（シーズン前点検等の際には必ず）に気密テストを行います。気密が不十分であれば、ドアの調整が必要になります。

👉 35 ページ「気密テストの方法」

注意

ファイバーロープに弾力性がなく、硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合は、ファイバーロープの交換が必要です。そのままお使いになると過剰に燃焼空気が入り火力コントロールができなくなります。過燃焼となり燃焼室の中のパーツが歪んだりストーブの劣化を招くばかりでなく大変危険です。必ず実行してください。

必要工具

・プラスドライバー

ドアラッチ金具とワッシャー①、②の位置を変えることによってドアの調整ができます。

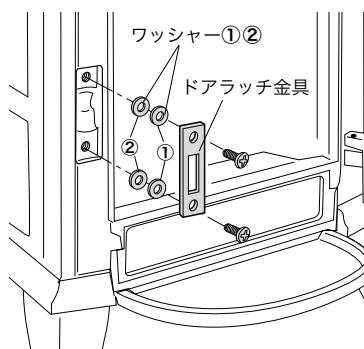
1 ドアラッチ金具を外します。（図 6）

2 ドアの気密を高めるためにきつくする場合
ワッシャー①をドアラッチ金具の裏側から表側に移動させます。1枚でもゆるい時にはワッシャー①、②、2枚とも移動させます。

ドアがきつすぎる場合

ドアラッチ金具の表側にあるワッシャーを裏側に移動させます。1枚でもきつい時には2枚とも移動させます。

ネジを締めドアラッチ金具とワッシャーを取付けます。



（図 6）

3 ネジを締めドアラッチ金具とワッシャーを取付けます。

4 気密テストを行い（35 ページ）、必要に応じてワッシャーを再度移動させ調整します。

5 ワッシャーを全て移動させても改善されない場合には、ファイバーロープの交換が必要になります。

Memo

メンテナンス

9

一次空気取入れ口、サーモスタットの点検

メン
テナ
ンス

一次空気は、自動温度調節機能により、空気の供給量が自動的に調節されます。下記のような燃焼の不具合が起きたときには点検、交換が必要です。

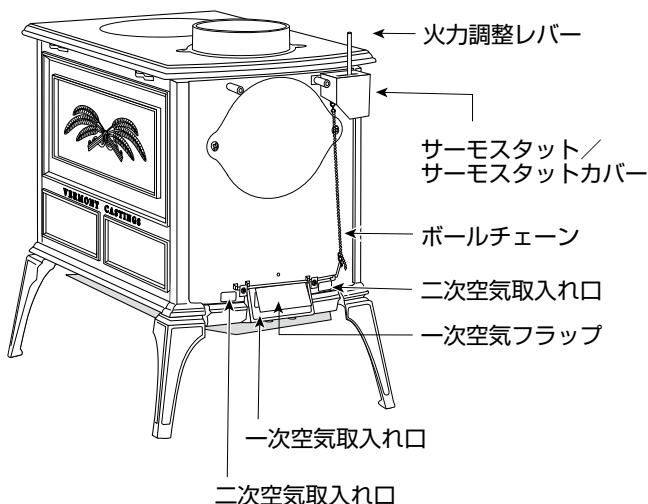
- ・ 過燃焼が続く、火力調整レバーで調節ができない。
- ・ 本体が冷えている焚き始めの時に、火力調整レバーを操作しても空気不足で炎が立ち上がらない。

●一次空気取入れ口の作動点検

一次空気取入れ口は本体背面の中央下部にあり、ストーブの背後から確認できます。火力調整レバーを動かす際、取入れ口の一次空気フラップは連動して開閉できなくてはなりません。うまく作動しない場合には、お買い求めの販売店にご相談ください。

ポイント 一次／二次空気取入れ口にほこりが溜まっている場合がありますので、掃除機等で取り除いてください。

注意 火力調整レバーとつながっている一次空気取入れ口の構造部分の改造・調整（ボールチェーンの長さ等）は絶対に行わないでください。過燃焼になるおそれがあり大変危険です。

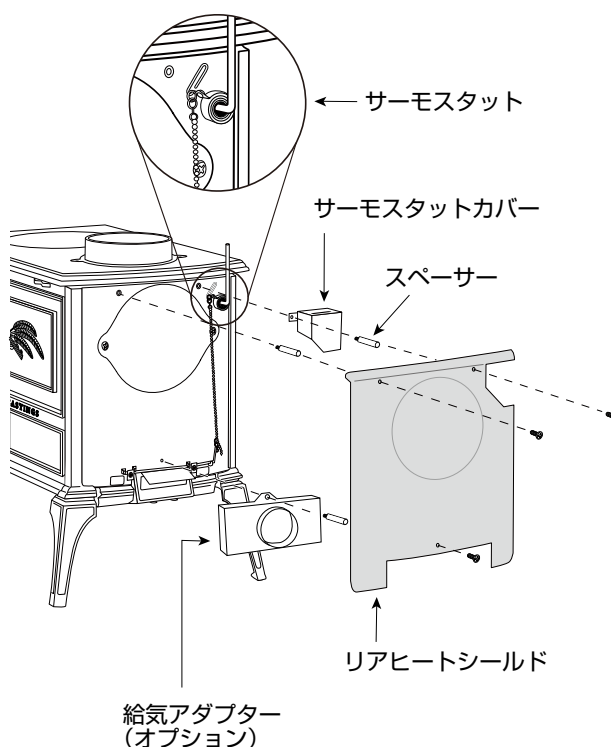


※実際は、右上のイラストのようにリアヒートシールドが標準で装着されています。

※給気アダプターが接続されている場合の脱着は右上のイラストを参照してください。

●サーモスタットの作動点検

本体が冷えていることを確認のうえ、背面3箇所（ネジ、スペーサー）を外し、リアヒートシールド、サーモスタットカバーを外します。給気アダプターが接続されている場合も外します。サーモスタットの破損、劣化などがないか点検し、異常があれば交換します。また、ほこりがあれば取り除きます。交換の場合には、お買い求めの販売店にご相談ください。



耐火レンガの点検・交換

9

メンテナンス

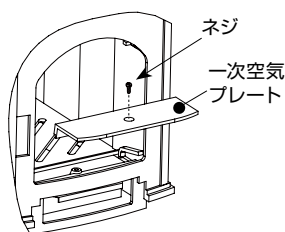
シーズン前点検の際に、耐火レンガに大きなクラックが入っている等、激しい劣化が認められた時は交換します。

必要工具等

- ・プラスドライバー
- ・コンビネーションレンチ 7/16" (11mm)

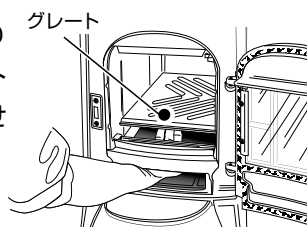
● 燃焼室両側面と奥正面の耐火レンガの交換

- 1** フロントドアを開け灰受け皿を取り出します。一次空気プレートを固定しているネジ（1箇所）を外し、一次空気プレートを外します。

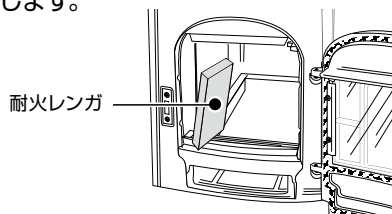


ポイント セメントが付着し一次空気プレートが外れにくい場合があります。ショックレスハンマーなどで軽く叩いて外します。プレートを外し点検・交換が終わった後、再びセメントで固める必要はありません。

- 2** 灰受け皿の空間より手を入れ、グレートを持ち上げて浮かせ取り外します。



- 3** 交換する劣化した耐火レンガを取り出し、新しい耐火レンガに交換します。耐火レンガの上部を差し込み、周りのレンガに合わせて取付けます。奥正面のレンガは側面のレンガを外してから交換します。

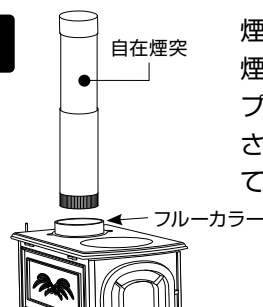


- 4** グレート、一次空気プレート、灰受け皿をもとに戻します。

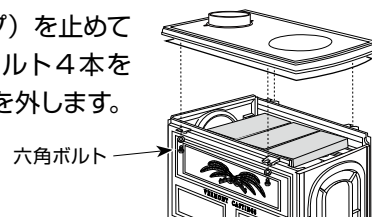
● 天板（トップ）下の耐火レンガの交換

天板の下（燃焼室二次空気チューブの上）にも耐火レンガがあります。劣化破損が確認された場合には交換してください。煙突と天板（トップ）を取り外す必要があります。煙突掃除の時にやることをおすすめします。

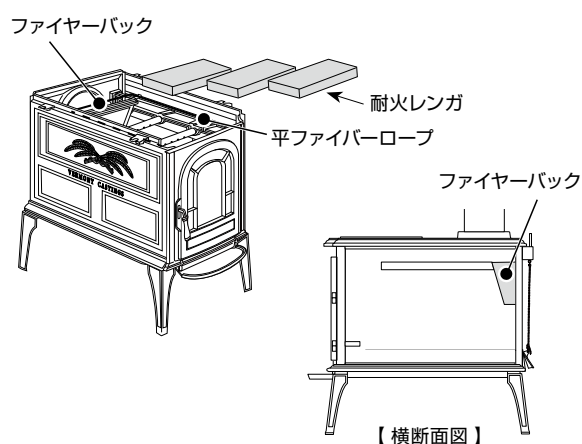
- 1** 煙突を取り外します。自在煙突からストーブ天板（トップ）のフルーカラーに接続されている煙突までをすべて取り外します。



- 2** 天板（トップ）を止めている六角ボルト4本を外し、天板を外します。



- 3** レンガ3枚を取り外し、レンガが接する部分にある平ファイバーロープ（30000504）を交換します。ファイヤーバックの中等に灰がたまっている場合は取り除きます。



- 4** 新しいレンガをもとの位置に並べます。

- 5** 天板（トップ）を戻して六角ボルトで固定します。煙突を接続してネジで止めます。

●煙突点検の必要性

ストーブの燃焼により、煙に含まれるススやクレオソートなどの物質が煙突内部に蓄積すると、煙突がつまって室内に煙が漏れるおそれがあるほか、燃えやすいクレオソートにより、煙突火災が発生するおそれがあります。煙突内部の堆積物量は使用頻度や使用状況によって異なりますが、シーズンを終えてから、次のシーズンまでの間に必ず点検を行い、煙突内部に 3mm 以上のススの堆積が確認された場合、煙突内部の掃除を行ってください。

🔗 28 ページ「クレオソート」

●点検の重点部位

ススやクレオソートは燃焼室から煙突頂部の排気経路全てにおいて堆積する可能性があります。特に、シングル煙突（一重室内煙突）の内側、または煙突トップとその付近の煙突内部が冷却されやすい場所、横引き部分や煙突ダンパーを備えている場合はその部分など、排気の抵抗のある部分は注意して点検してください。

●安全の確保

煙突掃除は設置の状況により、はしごを利用して屋根に登らなければならない場合もありますが、安全具の着用など、身の安全に十分配慮して行ってください。また、煙突の点検を行う前は、お買い求めの販売店のアドバイスを得ることが重要です。ご自身で行えない場合は、必ずお買い求めの販売店へご相談ください。

●掃除道具

煙突内部の掃除には、設置されている煙突の直径と長さに応じて、ブラシとロッドが必要です。お買い求めの販売店へご確認ください、煙突掃除道具をご購入ください。

●点検口

一般的には煙突頂部の雨仕舞部材を外して、上から煙突内部を覗き込み点検・掃除を行う方法と、図のように点検口を備えた煙突（90° T 型、点検口付直筒、またはエルボー）や接続部を外すことができ

る煙突（自在煙突、スライドアジャスター）を利用して煙突内部を点検・掃除する方法があります。お客様により設置状況が異なりますのでお買い求めの販売店へご確認ください。

注意

点検・掃除のために外した点検口や煙突は、作業終了後にもとに戻し、フタや煙突が確実に固定されているか必ず確認してください。

●掃除方法

点検口、もしくは煙突を外したところに、煙突掃除用袋などのスス受を設けてブラシを煙突内部に挿入していきます。エルボーの部分はブラシが挿入しにくい場合がありますが、専用のスプリングを使用すると楽に挿入できます。決して勢いを付けるなど無理に挿入しないようにしてください。振動で煙突が外れてけがをするおそれがあります。煙突の全長とロッドの長さを確認しながら、ブラシを最後まで挿入してください。堆積物の質と量に応じて一往復、もしくは2～3回繰り返してください。掃除後に煙突内部を確認して、堆積物が除去されていれば終了です。

●煙突点検・掃除に付随する点検内容

- 本体と煙突の接続部、および煙突どうしの接続部に緩みやガタつきがないか。
- 屋外給気筒（口）開口部付近の整理整頓、およびホコリ除去。
- カーテン、家具など可燃物の近接確認。
- 除去された堆積物にクレオソートが含まれる場合、薪の含水率を確認。

●次の場合は一時ご使用をおやめになりお買い求めの販売店へご相談ください

- 除去された堆積物に、煙突が腐食したと思われる金属片が確認された場合。
- 煙突内部に変形、もしくは劣化が認められた場合。
- 地震、水害、落雷等の天災地変が起こった場合。
- 煙突の接続部、もしくは隠蔽部から煙が漏れる場合。

[illegible]

トラブルシューティング (問題解決のヒント)

10

トラブルシューティング

薪ストーブのトラブルには一つの現象において複合的に要因が存在する場合があります。要因のひとつひとつを追及し対処することが問題解決のカギとなります。

この章をお読みになり、表にない場合、あるいはご自身で問題が解決されない場合や故障と思われるときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

現象 原因		燃えない (スタート時)	燃えない (温度が上がらない)	燃えすぎる (温度が上がりすぎる)	煙が逆流する	バックパフィン グ	ガラスがくもる	燃焼室に錆が出る	灰色や茶色の煙が出る	タールが発生する	ドアが閉まらない	一次空気フラップが開閉しない	処置
燃料	薪が湿っている	●	●		●		●	●	●	●			含水率が 20%以下まで乾燥した薪を使用してください。市販の含水率計を使うことで簡単に薪の乾燥状態を知ることができます。乾燥期間を 1 年以上かけても乾燥しない場合は、保管方法や保管場所を確認し改善してください。水分含有量が多すぎると、熱はその水分を蒸発させるために奪われ、連鎖的な燃焼にブレーキをかけます。 18 ページ「薪について」
	薪が乾燥しすぎている			●		●							乾燥に適した場所で長期間保管した薪は含水率が 15% 以下まで乾燥してしまう場合があります。含水率が 20%前後の薪と併用するか、薪と薪の間の隙間を少なくして燃やしてください。
	スギ、ヒノキ、マツなどの軟木を使用している			●					●	●			針葉樹の多くは広葉樹と比較すると密度が低く軽いため、短時間当たりの熱量は大きくなります。針葉樹を使用する場合は急激な温度上昇を回避するためにできるだけ太い薪を使用してください。また、針葉樹の多くはヤニ成分を含んでおり、十分に乾燥がされていないと、タールやクレオソートを発生させる原因となります。
	薪の投入量が多い			●		●							薪の投入量は二次空気吹き出し口のあいたステンレスチューブ (13 ページ) の下 5cm 程度までにしてください。
	薪が細かすぎる			●									長時間の燃焼に必要な直径約 8 ~ 10cm 程度の薪をご用意ください。
	塩や化学物質が含まれた材木を使用している							●	●				合板、塗装、または防腐処理がされた木材、海水に浸された薪は有害物質を発生させ、ストーブや煙突を破損させますのでご使用をおやめください。
	焚きつけが少ない	●	●										スタートや薪の追加時には、太い薪に火が移るために必要となる十分な量の焚きつけを使用してください。
	おき火が足りない	●	●										燃焼が連鎖できる十分なおき床の量が必要です。追加された薪はこのおき火からの熱を受け、燃焼が連鎖していきます。
	薪と薪の間に通気がない	●	●										薪と薪の間には空気が通うように隙間を設けて積み上げてください。特におき火のないスタート時は、焚き付けと薪の間に十分な空間を設けてください。

現象 原因		燃えない (スタート時)	燃えない (温度が上がらない)	燃えすぎる (温度が上がりすぎる)	煙が逆流する	バックパフィンク	ガラスがくもる	燃焼室に錆が出る	灰色や茶色の煙が出る	タールが発生する	ドアが開まらない	一次空気フラップが開閉しない	処置
ストーブ	火力調整レバーを開けすぎている			●									火力調整レバーを低の方向に動かし、炎のゆらめきがゆっくりになるよう、また、ストーブトップの温度計が 200 ～ 300℃ になるように調節してください。
	火力調整レバーを閉めすぎている	●	●		●	●	●		●				スタート時は燃焼が安定するまで火力調整レバーを全開にしてください。運転中に燃焼室がくすぶっている場合は、火力調整レバーを開けてください。燃焼室は常に炎が揺らいている状態で運転してください。
	ファイバーロープが消耗している			●			●				●		弾力性を失ったものやほつれがあるものは新しいファイバーロープに交換してください。 🔧 35 ～ 36 ページ「ファイバーロープの交換」
	ドアの緩み (ドアに隙間がある)			●			●				●		ロックの調整をしてください。 🔧 37 ページ「フロントドアの調整」 ファイバーロープを交換してドアの調整をしても緩みが改善されない場合は金属部品が消耗している可能性があります。お買い求めのお販売店へご連絡ください。
	ファイバーロープの交換										●		ファイバーロープを新しく交換した場合はドアのロックを調整してください。 🔧 37 ページ「フロントドアの調整」
	灰をためすぎている										●		灰受け皿からこぼれる前に灰を取り出してください。 🔧 32 ページ「灰の掃除」
	ボールチェーン、またはサーモスタットの破損	●	●								●		火力調整レバーと空気弁が連動しない場合は、消耗、もしくは破損している可能性があります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	フルーカラー（煙突接続口）の下がススなどで閉塞している		●		●	●	●						薪が湿っていないか確認し、乾燥した薪を使用してください。 🔧 18 ページ「薪について」 空気を絞すぎないように注意し、200 ～ 350℃ で燃焼させてください。また、煙突、ファイヤーバックの中は定期的に掃除してください。 🔧 30 ～ 31 ページ「点検スケジュール」 40 ～ 41 ページ「煙突の点検と掃除」
	給気の不足、ホコリが詰まっている	●	●			●							一次／二次空気取入口にほこりが溜まっている場合には掃除してください。 🔧 38 ページ「一次空気取入口、サーモスタットの点検」
	燃焼中にドアが開いている			●									燃焼中はドアを開けて使用しないでください。
	一次空気プレート内に灰が詰まっている	●	●										一次空気プレートを外し、中の灰を除去してください。 🔧 32 ページ「一次空気吹き出し口の掃除」

トラブルシューティング (問題解決のヒント)

10

トラブルシューティング

現象 原因		燃えない (スタート時)	燃えない (温度が上がりすぎない)	燃えすぎる (温度が上がりすぎる)	煙が逆流する	バックパフィン グ	ガラスがくもる	燃焼室に錆が出る	灰色や茶色の煙が出る	タールが発生する	ドアが開まらない	一次空気フラップが開閉しない	処置
煙突	煙突がススなどで閉塞している	●	●		●	●	●						排気の妨げにならないよう煙突内部のススが3mm以上堆積している場合は煙突掃除で除去してください。突然燃焼異常が生じた場合は、煙突頂部に鳥の巣や飛来したゴミにより閉塞した可能性があります。 40 ページ「煙突の点検と掃除」 また、煙突から落ちてきたススが、燃焼室上部の排気経路に堆積し、閉塞している可能性があります。ストーブと煙突の接続部を取り外し、口元から堆積物を取り除いてください。
	一次・二次空気取入れ口、もしくは給気ダクトがゴミなどで閉塞している	●	●		●	●	●						屋外に直接通じる給気口がゴミやホコリにより閉塞している場合、または飛来したゴミが給気アダプター（オプション）を閉塞している場合には、除去してください。
	ドラフトが強い			●									常にドラフトが強い場合は煙突ダンパーの装着により解決される場合があります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	曲がりが多い、あるいは横引きが長い	●	●		●	●	●						曲がりや横引きにより排気抵抗が大きいの可能性があります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	煙突が短い (5 m未満)	●	●		●	●	●						煙突は最低 5 メートル（海拔ゼロ地点）が必要です。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	煙突ダンパーが閉じている	●	●		●	●	●						煙突ダンパーを開けてください。 (煙突ダンパー付きのみ)
建物	部屋の気密が高い	●	●		●	●	●						エネルギー効率を配慮した高气密住宅では、屋内空気の循環が制限されているので、室内から十分な燃焼空気を得にくい場合があります。燃焼中にストーブに近い窓を少し開けておくか、外気の導入により屋外から直接燃焼空気を取り込むための経路が必要となります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	換気扇を使用している	●	●		●	●	●						ストーブを据え付けている部屋（空間）の換気扇を止めてください。
	屋外障害物による風圧帯 ※ある方向から吹く風だけ逆流する場合				●	●							煙突頂部が障害物の風下に位置している場合、乱気流による風圧帯によって一時的に煙が逆流する場合があります。この場合、どの方向からの風によるものかを判断することは、障害物の原因特定、および問題解決の手がかりとなります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
天候	冷え込みが激しい日	●			●								冷え込みが激しい日は、屋外の煙突が冷却され、スタート時のドラフトが容易に得られない場合があります。このような場合は、「ドラフトを起こす」(22 ページ)の方法で、強制的にドラフトを発生させることで逆流を防ぐことができます。
	小春日和など穏やかな天候時	●			●								室内と屋外の温度差が小さい場合、適切なドラフトが生じるまで時間がかかる場合があります。
	強風時	●		●	●								煙突の頂部が横風にさらされると、頂部の風下側で負圧が発生し、煙突内の負圧を補助する働きが生まれ、一時的にドラフトが加速される場合があります。一方、強風の都度、室内に煙が漏れる場合は、お買い求めの販売店へご連絡ください。

名称／品番		アスペン／＃ 1920
ストーブサイズ		幅 415 ×奥行き 640 ×高さ 575mm
ストーブ重量		109kg
材質		鋳物
仕上げ		黒耐熱塗装
燃焼方式・性能	最大出力 ※ 1	4,500kcal/h (5.2kW)
	暖房面積	6 ～ 17 坪 (20 ～ 56㎡)
	燃焼効率	69.5%
	PM 排出量 (EPA)	4.3g/ h
	燃焼システム	クリーンバーン方式
	燃料の種類	薪
	燃料容量	8kg
	最大薪長さ	35cm (最適長さ 30 ～ 35cm)
	温度調節機能 (火力調整レバー)	自動
機能	天板	クックトップ
	ボトムヒートシールド	標準装備
	リアヒートシールド	標準装備
	灰受け皿	引出し式
	ガラス	ガラス空気洗浄システム
耐熱セラミックガラス		
煙突直径		φ 150mm (6インチ)
オプション		給気アダプター

※ 1 : 暖房面積は、アメリカ建築基準に適合した住宅を基準に完全乾燥した良質広葉樹による燃焼実験データです。
上記スペックは、住宅構造、設置方法、薪質、お客様の使用状況により、必ずしも一致するものではありません。

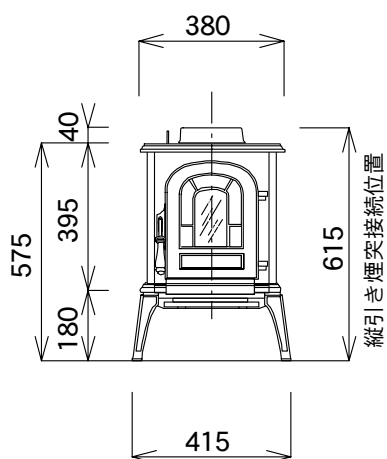
仕様

11

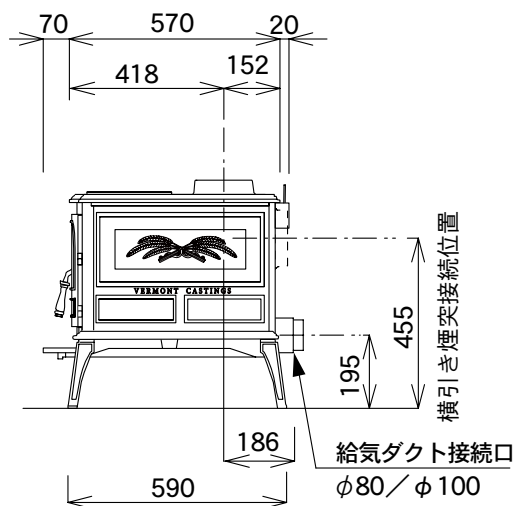
ストーブ寸法図

仕様

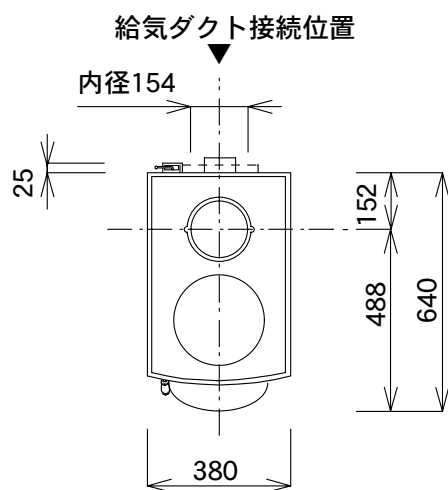
(単位 : mm)



立面図



側面図



平面図

修理を依頼される前に ……

まずはトラブルシュート(42 ページ) をご確認ください。解決しない場合やトラブルシュートにない異常、破損がある時は使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。

保証について

保証書は、赤いオーナーズマニュアルケースに同封してあります。

「お引き渡し日・販売店名」等に記入漏れがないかご確認ください。記入漏れがある場合、保証いたしかねますのでご注意ください(記入もれのある場合は、お買い上げの販売店にお申し出ください)。

保証書は内容をよくお読みになった後、大切に保管してください。

保証期間中の修理に際しては必ず保証書をご提示ください。

保証期間

保証期間はお買い上げいただいた日から2年間です。この期間中に本書に従った正常な使用状況のもとで故障が発生した場合、消耗部品(31 ページ)を除き保証書の規定に従って無料修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合に限り、ご希望により有料にて修理いたします。お買い求めの販売店か弊社までお問い合わせください。

修理料金の内容

修理料金は部品代などで構成されています。

- 技術料／診断、故障箇所の修理、部品交換、調整、完了点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代／修理に使用した部品、および補助材料費用です。
- 出張料／製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

補修用性能部品の保有期限

補修用性能部品(性能を維持するために必要な部品)の保有期限は生産終了後10年です。

あんしん点検のご案内

所有者登録にご記入いただき、あんしん点検のご登録をいただいたお客様には、お引き渡しから5年後にあんしん点検(点検は有料)のご案内通知をお送りさせていただきます。

ご不明な点や修理に関するご相談は …

ご不明な点ならびに故障・修理、あるいは部品のお取り替えに関するご相談は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

より一層のご理解をいただくために、本書とあわせて下記のサイトもご利用ください。



ファイヤーサイド公式サイト



薪ストーブエッセイ・森からの便り

【取扱説明書ダウンロード】

<https://www.firesidestove.com/products/stoves/manual.html>

ファイヤーサイドのホームページより常に最新版の取扱説明書をダウンロードいただけます。

VERMONT
CASTINGS



輸入元

THE FIRESIDE COMPANY
ファイヤーサイド株式会社

長野本社／〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂497-871 TEL:0265-82-4676(代) FAX:0265-82-4683

☎0120-46-7877 e-mail:info@firesidestove.com

- ファイヤーサイド公式サイト <https://www.firesidestove.com>
- 薪ストーブエッセイ・森からの便り <https://fireside-essay.jp>

Copyright 2019 Fireside Company Ltd.© 掲載されている全ての情報及び写真、イラスト等の無断転載、複写、複製を禁じます。

FS-2019.02. ⑤